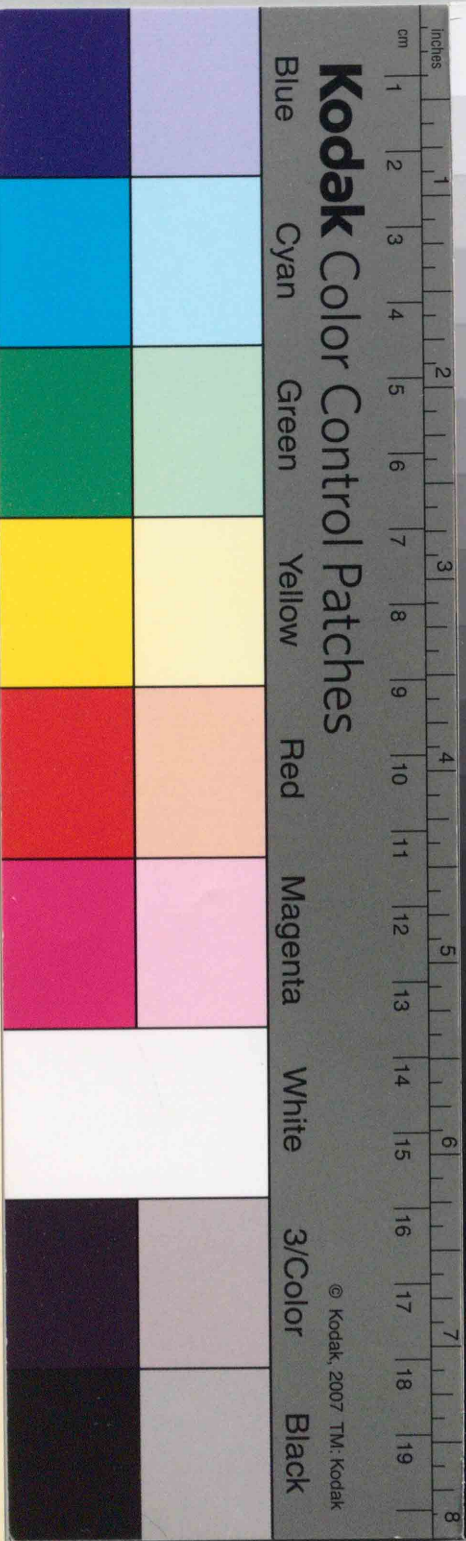


41073  
41073

教科書文庫

4
760
52-1936 <sup>4</sup>
20000 89559



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

教科書文庫

4

760

52-1934

2000089559

# 新女子音楽教科書

若狭萬次郎 編著

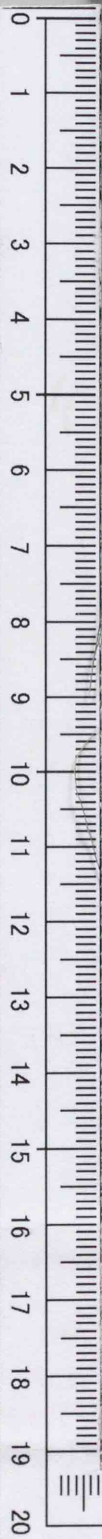
第三編

広島大学図書

2000089559



東京  
共益商社書店



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16

4b  
760  
AB11

教育学科  
資料室

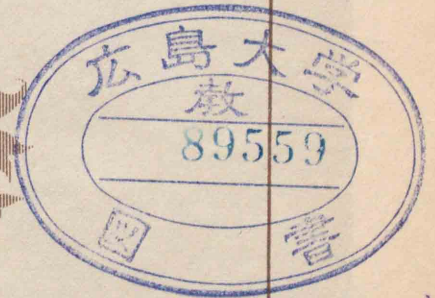
教科書文庫  
4  
760  
52-1934  
2000089559

昭和九年三月三十日  
文部省檢定済  
師範學校・高等女學校音樂科

# 新女子音樂教科書

若狹萬次郎編著

第三編



広島大学図書

2000089559



東京

合資会社 共益商社書店發行



Schubert

歌劇大作家

グルック C. W. R. von Gluck (獨) 歌劇の改革者。代表作は歌劇『ホルフェイス』『アウリスのイフィゲニア』等。主として佛蘭西の樂壇の爲に活躍す。

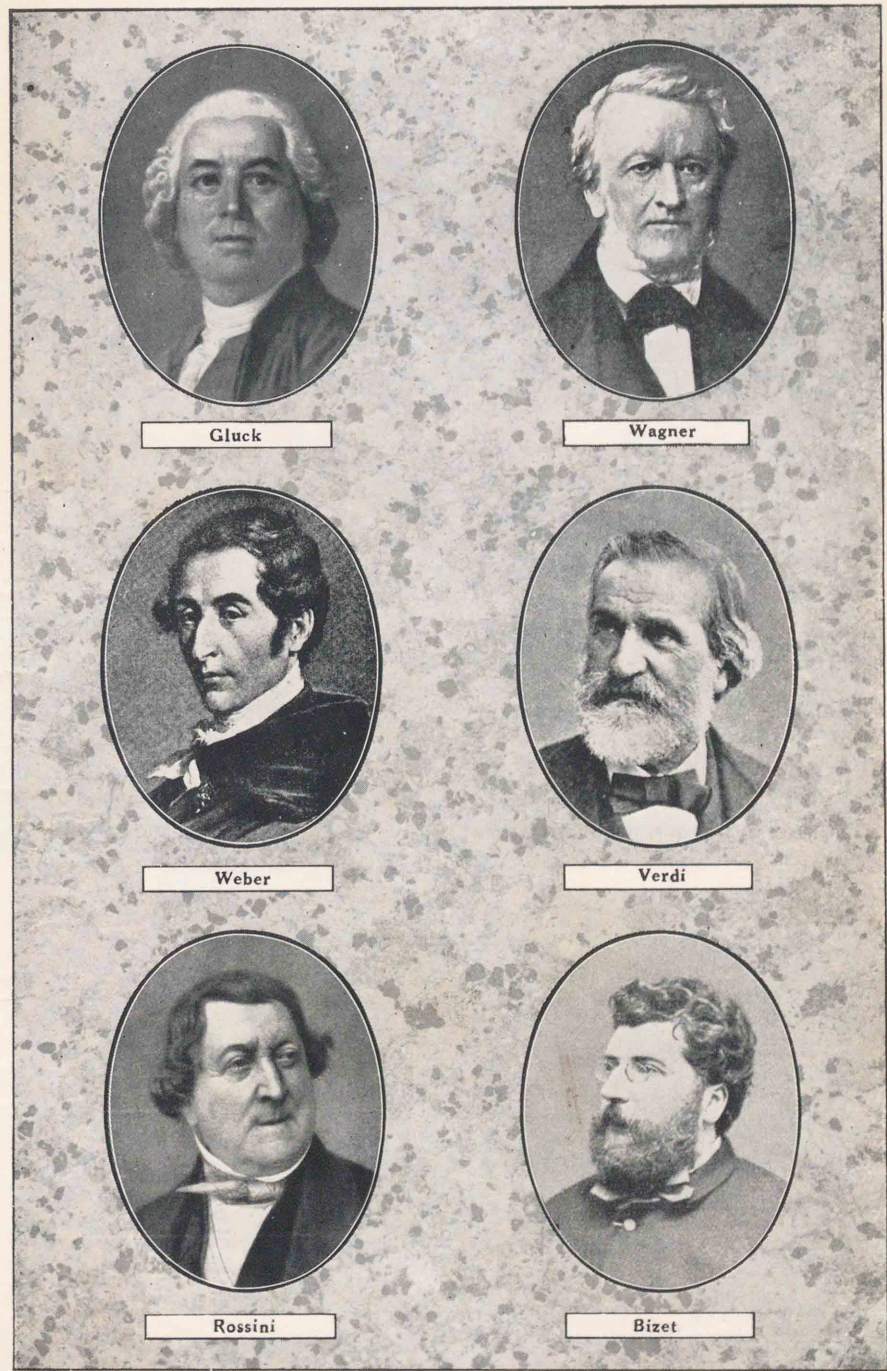
ウェーベル C.M. von Weber (獨) ローマン派の大家。歌劇及びピアノ曲の著名な作家、獨逸國民歌劇の開拓者。代表作は歌劇『フライシュッツ』『オベロン』『オイリアンテ』等。

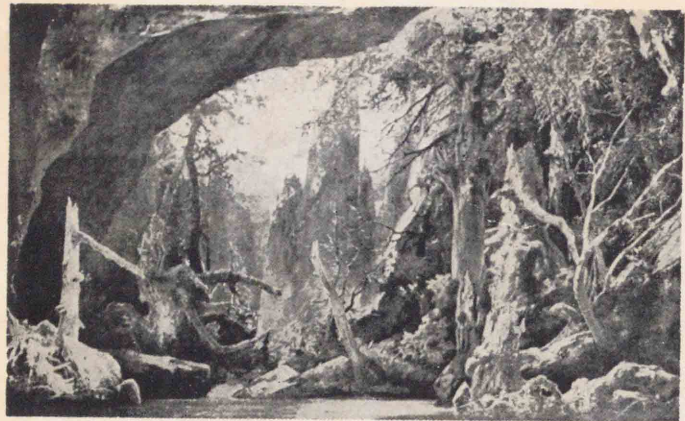
ロッシニ G. Rossini (伊) 美しい旋律に富んだ伊太利歌劇の大作家。代表作は歌劇『セヴラの理髮師』『ウイリアム・テル』『セミラミーデ』等。

ヴァーグネル R. Wagner (獨) 劃世的大巨匠、樂劇の創始者、又指揮者、評論家。九大音樂劇を作詩作曲す。代表作は歌劇『タンホイゼル』『ローエングリン』、樂劇『ニュールンベルクの名歌手』『ニーベルンゲンの指環』『パルシファル』等。

ヴェルディ G. Verdi (伊) 獨逸のヴァーグネルに對立する伊太利歌劇の大作家。代表作は歌劇『リゴレット』『イルトロヴァトーレ』『ラ・トラヴィヤタ』『アイーダ』等。

ビゼー G. Bizet (佛) 佛蘭西歌劇の大作家。代表作は歌劇『眞珠採り』『カルメン』、組曲『アルルの女』等。

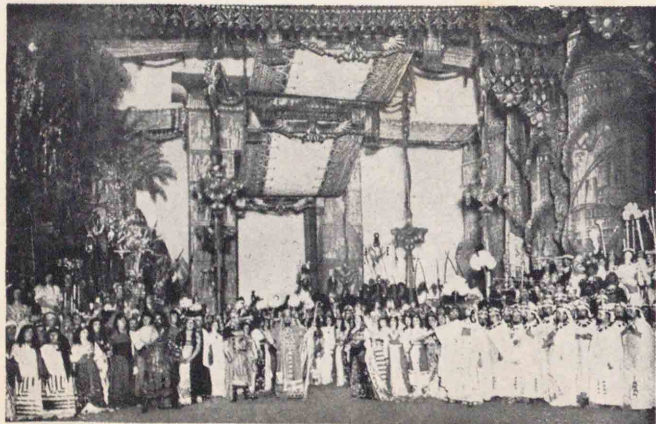




ウエーベル作  
歌劇「ライシュッツ」第二幕中  
「狼の谷の場」の舞臺面



ヴァーグネル作  
歌劇「ローエングリン」第一幕中  
「ローエングリン登場の場」の舞臺面



ヴェルディ作  
歌劇「アイダ」第二幕中  
「凱旋の場」の舞臺面

## 緒 言

- 一 本書は女子師範學校及び高等女學校の音樂科教科書として編纂したものである。
- 一 曲は主として泰西諸名家の作又は有名な泰西の民謡曲等から採用したものである。

歌曲を比較的多數に輯録したのは、増加教材或は鑑賞的教材の補充、又は情況による教授者の適切且自由な教材選擇の便益等に資せんが爲である。尙低學年の部に於ては、歌曲の調子を、音階構成の順序に従つて並べることには留意したが、又讀譜上其の單調なものを補はんが爲に、所々に參考的に他の調子をも交へて置くことにした。

- 一 基本教練・音樂理論等は各學年の程度に應じて適當と認められたものを輯録した。
- 一 又、儀式唱歌・外國語唱歌・各國國歌・音樂史概説・著名音樂家年表・樂式關係用語類纂等は各學年の程度に應じて適當と認められたものを附録として輯録した。

就中、上學年の部の音樂史概説・著名音樂家年表・樂式關係用語類纂等の如きは、卷頭の口繪寫眞と相俟つて、鑑賞的方面の適切な參考資料として特に輯録したものである。

- 一 終に、本書の編纂にあたつて、多大の援助を與へられた先輩諸大家の厚き好意に對して、深く感謝の意を表する次第である。

昭和八年九月

編 著 者 識

# 新女子音楽教科書

## 第三編

### 目次

#### 基本教練

發聲及び音階練習	1
音程練習	2
讀譜練習	3

#### 歌曲

戀しき山河	15	17
○花	19	18
旭	21	18
春の光	23	22
波路の彼方	25	26
揚る雲雀	27	26
○籬の薔薇	28	29
谷間の白百合	30	29
○海の朝	31	33
星影あびて	35	34
夏の山路	37	38

納涼	39	38
○舟唄	41	42
○荒城の月	43	44
晩鐘	45	46
獵人の歌	47	49
菊の盃	50	51
秋の夕暮	52	51
樂しき夜	53	55
思出	56	59
秋の夜	57	59
國の誇	60	61
○我が友	62	61
夜の森	63	64
羊飼の歌	65	66
○我が水手	67	68
霜の旦	69	68
○遊獵	70	73
○追憶	74	73
○希望の囁	75	77

旅の思	78	79
何時かまた	80	79
谷間の流	81	82
水	83	86
人魚の歌	87	90
少女のまどろみ	91	93

#### 樂典

1. 既習の長音階構成の表	94
2. 音階	96
3. 移調	99
4. 音程	100
5. 裝飾音	102
6. 速度標語の表	103
7. 發想標語並に發想記號の表	104

#### 和聲論

1. 三和音	107
2. 長短兩音階各度上の三和音	108
3. 主要三和音と副三和音	108

4. 人聲の區域と四聲音	109
5. 和音中の音の重複と省略	109
6. 密集和聲と開離和聲	110
7. 和音の基本位置	111
8. 三和音の轉回	111
9. 聲音の進行	112
10. 和音の連結	112
練習問題	114
11. 七の和音	115
12. 屬七の和音の解決	116
練習問題	117

#### 附錄

If a body find a lesson.	119
Old black Joe.	120
Massa's in de cold, cold ground.	121
Home, sweet home.	123
Deutschland über Alles.	125

常若の花	126	127
萬歳	128	127
卒業式の歌	129	130
送別の歌	131	131

發聲及び音階練習

1. 

2. 

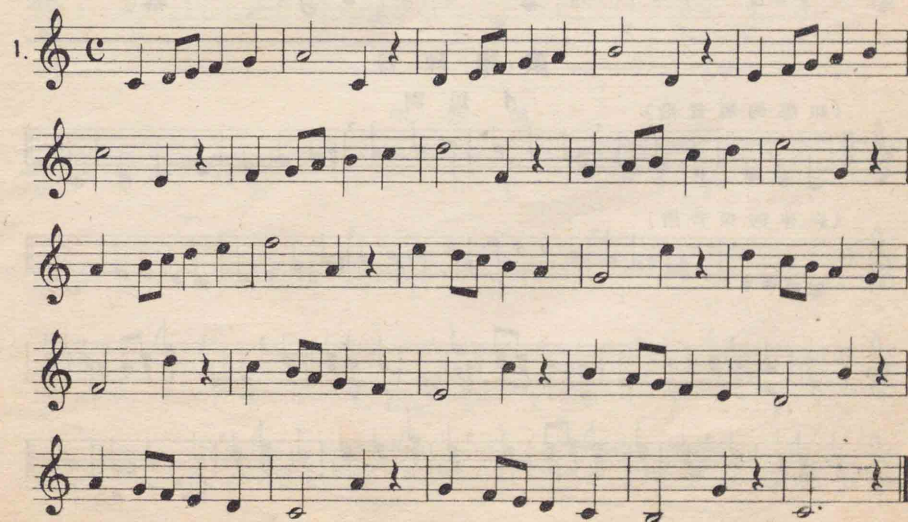
3. 

4. 

音程練習

六度音程



1. 

2.

3.

讀譜練習

(和聲的短音階) 1 短調

(旋律的短音階) 2.

3.

4.

5.

木 短調 1.

2.

3.



6.

7.

8.

□ 短 調

1.

2.

3.

9.

10.

11.

4.

12.

13.

14.

嬰へ短調

1.   
 2.   
 3.

15.

16.

4.

17.

18.

19.

二 短 調

1.

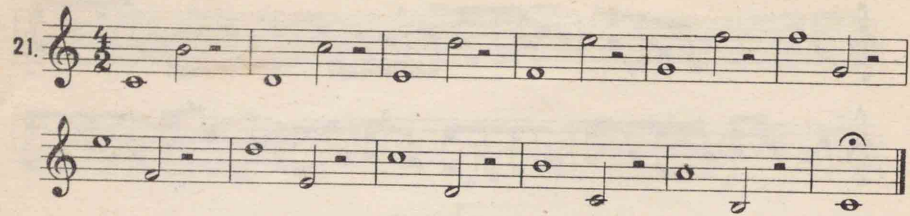
2.

七 度 音 程

長 短 短 長 短 短 短

20.

3.

21. 

22. 

23. 

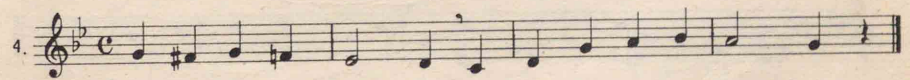
24. 

短調  
1.   
2.   
3. 

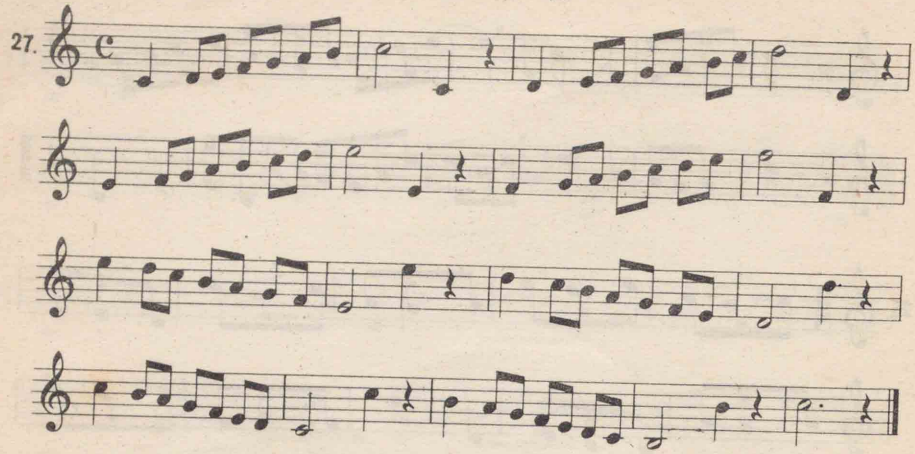


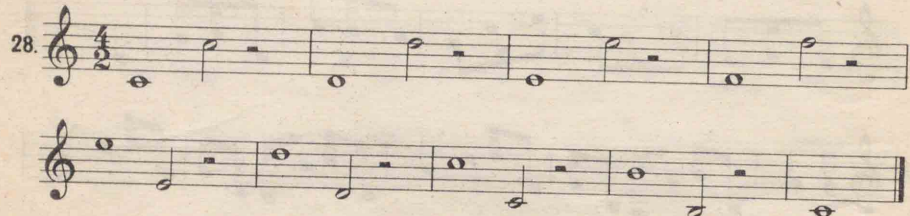
25. 

26. 

4.   
5. 

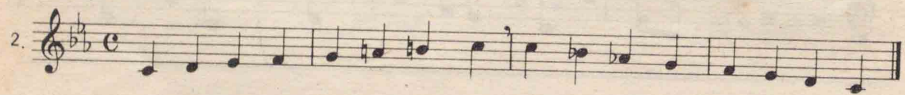
八度音程

27. 

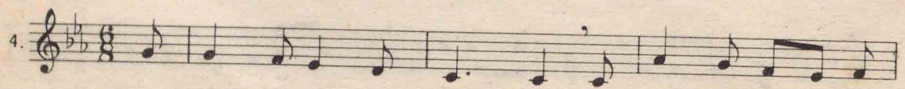
28. 

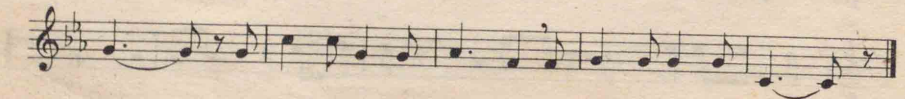
29. 

1. 

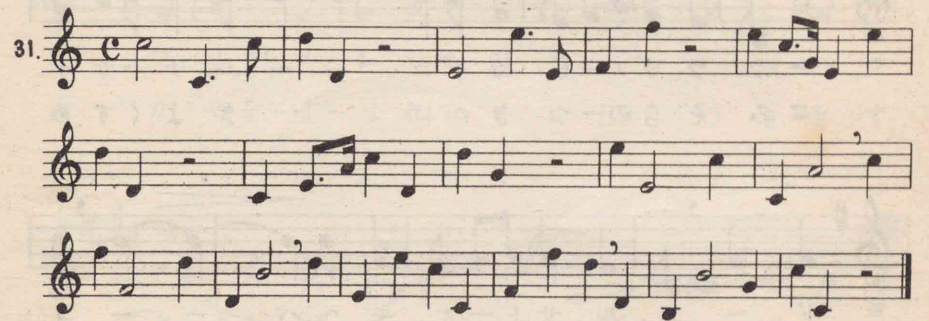
2. 

3. 

4. 



30. 

31. 

短調

1. 

2. 

3. 

4. 

5. 





# 戀しき山河

Allegretto.

Stark - Wakasa.



一ウ ララノーヒ カゲニ ー ー ハ ナハサケ  
ニ.み そらの一つ きかげ ー ー き よくすめ



ド ー フル サトーオ モヘバ ー ー コ  
ど ー ふ る さとーお もへば ー ー ま



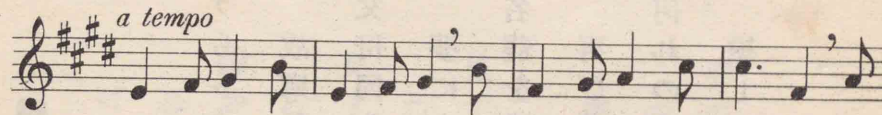
コ ー ロ ワ ビ シ チ チ ハ ハ ハ ラ カ ラ ツ  
な ー こ く も る お と と い と も が き つ



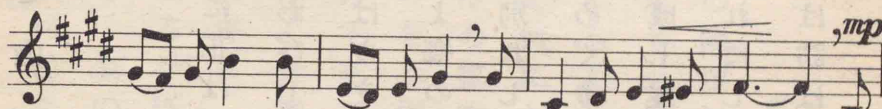
ツ ガ ハ ナ キ カ ー ー ユ メ ニ モ ミ  
つ が は な き か ー ー ゆ め に も う



ユ ル ヨ サ ト ノ コ ヤ マ ー ー ナ  
か ぶ よ さ と の を が は ー ー わ



ゴ リヲヲ シミテワ カレシハルハフ  
が や を は な れ て い く と し つ き を す



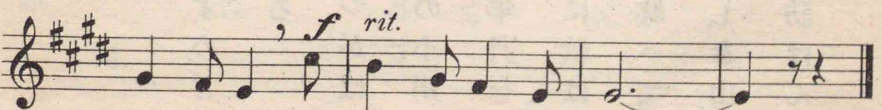
タータビコ ノーミニメグリキタルーイ  
ごーししこの一みにあきはきたるーい



ヅレノトキニカコトナシトゲテコ  
づれのときにかまなびををへてな



ヒシキヤマカハナレニシヤ  
れにしやまかはこひしきや



マカハワレハトハン ー  
まかはわれはとはん ー

花

武島羽衣

春のうららの隅田川  
のぼりくだりの船人が  
權のしづくも花と散る  
ながめを何にたとふべき  
見ずやあけぼの露浴びて  
われにも言ふ櫻木を  
見ずや夕ぐれ手をのべて  
われさし招く青柳を  
錦おりなす長堤に  
暮るれば上るおぼろ月  
げに一刻も千金の  
ながめを何にたとふべき

旭

一 仰ぎ見よや  
東の空に  
昇る旭を  
萬象めざめて  
森羅蘇生す  
二 仰ぎ見よや  
東の海に  
昇る旭を  
乾坤廻りて  
四溟明か

戀しき山河

一 うららの日かげに花は咲けど  
故郷思へば心わびし  
父母同胞つつがはなきか  
夢にも見ゆるよ郷の小山  
名残を惜しみて別れし春は  
再び此の身にめぐり来る  
何れの時にか事成し遂げて  
戀しき山河馴れにし山河  
我は訪はん

犬童球溪

二 み空の月かげ清くすめど  
故郷思へば眼曇る  
おととい友がきつつがはなきか  
夢にも浮ぶよ郷の小川  
我が家を離れて幾年月を  
すごしし此の身に秋は来る  
何れの時にか學を終へて  
馴れにし山河戀しき山河  
我は訪はん

花

Allegro moderato.

Taki.

*mf*  
ハルノ ウララーノ スーミーダガハ

ノ ボリ クダーリーノ フナビートガ

カイノ シヅクモハナトチル

*mf*  
ナガメヲ ナーニニ タトフベキ

*p*  
ミズヤ アケーボノ ツーユーアビテ

ワレニ モノイフー サクラギヲ

*f*  
ミズヤ ユフグレテヲノベテ

*mf*  
ワレサシマーネークアヲヤギヲ

*f*  
ニシキオリナーズチヤウーテイニ

*mf*  
クルレバノーポールオボローヅキ

ゲニイツコクモセンキンノ

*mf* *f* *rit.*  
ナガメヲナーニニ タートフベキ



春の光

一 うららの春の空

のどけき空の色

山にも野邊にも喜満ちたり  
咲く花霞に匂ひて雲とまがひ  
吹雪する櫻花日傘にひらひら  
神の恵四方にあふれ  
人の心常に樂し 春の眺  
胸を張りて少女もいざ歌へ

命若き春の姿

ララララララ ララララララ  
たのしや うれしや

二 うららの春の海

なごめる海の色

岸にも島にもどけき満ちたり  
潮の香新に白帆も軽くすべり  
櫻鯛をどるとき黄金の波散る  
神の恵四方にあふれ  
人の心常に樂し 春の眺  
聲をあげて舟人いざ歌へ

命若き春の姿

ララララララ ララララララ  
たのしや うれしや

脇

太

一

旭

Maestoso. Rolle.  
mf f mf  
一 ア フ ギ ミー ヨー ヤ ヒ ガ シ ノ ソ  
二 あ ふ ぎ みー よー や ひ が し の う

f p  
ラ ニ ノ - ボ - ル - ア - サ - ヒ - ヲ バ ン -  
み に の - ぼ - る - あ - さ - ひ - を け ん -  
ノ - ボ - ル ア サ - ヒ ヲ  
の - ぼ - る あ さ - ひ を

シ ャ ウ メ ザ メ テ シ - シ ラ ソ セ - イ - ス  
こ ん め ぐ り て し - め い あ き - ら - か  
シ - - - - シ ラ  
し - - - - め い

# 春の光

Allegretto. *mp* Henrion.

一.ウララノハルノソーラノドケ  
二.うららの はるのうーみ なごめ

キソラノイーロ ヤマニ モ ノーベニ  
る うみの いーろ きしにも しーまに

*rall.* *mf* *a tempo*

モ ヨロコ ビ ミ チ タ リ  
も の ど け さ み ち た り

*p*

サクハナ カスミ ニ ニホヒテ  
しほのか あらたに しらほも

クモト マーガーヒ フブキ スル サクラ  
かるく すーべーり さくら だひ をどる

バ ナ ヒガサ ニ ヒラヒラー  
と き こがね の な み ち るー

*p*

カミノ メーゲーミ ヨモニ アーフレ ヒトノ  
かみの めーぐーみ よもに あーふーれ ひとの

ココーロ ツネニ ターノーシ ハルノ ナーゲーメ  
こーろ つねに たーのーし はるの なーがーめ

ムネヲ ハーリーテ ヲトメ モ イザウタヘ  
こゑを あーげて ふなびと いざうたへ

*p*

ラララ ラララ ラララ ラララ イノチ  
ラララ ラララ ラララ ラララ いのち

ワカキ ハルノ スーガータ ラララ ラララ  
わかき はるの すーがーた ラララ ラララ

ラララ ラララ タノシ ヤーウ レーシ ヤ  
ラララ ラララ たのし やーう れーし や



# 揚る雲雀

Allegro grazioso.

オランダ民謡曲

一. ハルリアーケボノミソラターカクモ  
 ニ. はるのゆふぐれかすむおほぞら

ア アーガルヒーバーリ ア ナーチャヒーバーリ  
 あ とぶやひばり あ まふやひばり

スガタハークモニニコワネハチーノーヘニ  
 ゆふばえきよらにつばさににほひて

ア ターノシウレーシ ア アーサノシラーベ  
 あ たのしうれし あ くれのをどり

# 籬の薔薇

Allegretto.

Schubert - Wakasa.

一. アサヒヲ ウーケーテ タカクカヲリ  
 ニ. いろかを とめて ここらつどひ

イリヒヲ アービーテ シンクニ  
 ひらひら あそぶ こてふと

モユール マーガーキーノーバラー  
 ともに まがきののばら

ナニニタトヘン イマシガイローカ  
 われもえさらず いましがほとり

谷間の白百合

Andante sostenuto.

Hermes.



一. ヒトザト ハナレシ タニマノ シラユ  
二. ひとあし たえたる たにまの しらゆ



リ - ウキヨ ノ ケガレ ハ ツユダ ニソマセ  
り - よそほ ひ かざら ず このよをうらみ



ズ ホ ホエミタテル ハ ヤ サ シキヲトメ  
ず う つむきたてる は と も なきをとめ



カ ア テ ナ ル カヲリ ヤ タヘナ  
か あ て な る か を り や たへな



ル スガタヤ ワレラ モ モタマ シ ケダカ  
る す が た や わ れ ら も と は ま し さ び し



キ ナレ ガ コ コ ロ ア ア  
き な れ が こ こ ろ あ あ

籬の薔薇

八波 則吉

一朝日をうけて 高く薫り

入日を浴びて 眞紅に燃ゆる

籬の薔薇 何に譬へん

いましが色香

二色香を求めて ここら集ひ

ひらひら遊ぶ 胡蝶と共に

籬の薔薇 我も得去らず

いましが邊

谷間の白百合

犬童 球 溪

一人里離れし谷間の白百合

浮世の汚は露だにそませず

ほほゑみ立てるは 優しきをとめか

あてなる薫や 妙なる姿や

我等も持たまし

け高きなれがこころ ああ

二人足絶えたる谷間の白百合

粧ひかざらず此の世を恨みず

俯き立てるは 友なきをとめか

あてなる薫や 妙なる姿や

我等も訪はまし

淋しきなれがこころ ああ

# 海の朝

Allegretto con moto.

Mazzinghi.

*dolce* Solo, 1st Voice.

ハ ル カ ナール ウ ミノーハ ーテ

ヤ ー クーモ ナ ラ ビターチーテ

ホ ー ノ ボノ ニ ー ーホ ー ヒ

ア ソラモ ミ ツ モホーガ ーラ

Chorus.

サ ワヤーカ ーナル ウミノア サ ナミハ ーナ

ナミ

ル サ ーラサ ーラナル イザヤ トモ

ハサ ーラサ ーラサ ーラナル イザヤ トモ

ス ナシロ キ ハ マニイ デ フ ネ ー マ タ ン

Solo, 2nd Voice.

*dolce*

シ マ ノ カ ナ タ ア サ ヒ ノ ー ボ ー リ ウ

ミ ー ノ ー オ モ キ リ ハ ー レ テ シ ロ ー ガ ネ コ

Repeat Chorus.

ガ ー ネ ノ ナ ミ ハ キ ラ ー キ ー ラ

Solo, 3rd Voice.

*dolce*

ロ ノ ト サ ヤ カ ニ ソ ラ ニ ヒ ー ビ ー キ

ア マ ビ ト ハ フ ナ ウ ー タ ー ヲ ナ ミ マ ニ

Repeat Chorus.

ナ ガ シ テ カ ヘ リ ク ル ナ ー キ ー サ

星影あびて

犬童球溪

一 煌めく星影 此の身に浴びて

田中の畦道 静かに迎らん

拙き調を高らかに歌ふも

恥ぢらふ人無き今日此の今宵

煌めく星影 此の身に浴びて

田中の畦道 静かに迎らん

ララララ ララララ

ララララ ララララ

のどかに遊ばん

楽しき今宵

二 煌めく星影 此の身に浴びて

露けき徑を 静かに迎らん

小川の流も 森吹く夜風も

我等を迎へて 喜び歌ふ

煌めく星影 此の身に浴びて

露けき徑を 静かに迎らん

ララララ ララララ

ララララ ララララ

のどかに遊ばん

楽しき今宵

海の朝

森迫武

(第一聲獨唱)

はるかなる海のはて

八雲ならびたちて

ほのぼのにほひ

あ 空も水もほがら

(合唱)

さわやかなる海の朝

浪は

浪はなる サラサラ鳴る

浪はサラ

いざやとも

いざや

砂白き濱に出で舟待たん

(第二聲獨唱)

嶋の彼方朝日昇り

海的面きりはれて

しろがねこがねの

浪はきらきら

(合唱) 繰返

(第三聲獨唱)

櫓の音さやかに

空にひびき

蟹人は舟唄を

波間にながして

歸り来る渚

(合唱) 繰返

星影あびて

Allegretto. Glover.  
mf

一.キラメクホシカゲコノミニーアビーテ  
二.きらめくほしかげこのみにーあびて

タナカノアゼミチシツカニタドラン  
つゆけきこみちをしづかにたどらん

dolce

ツタナキシラベヲタカラニウターフモ  
をがはのながれももりふくよーかーぜも

dolce

dim. rit.

ハチラフヒトナキケフコノコヨヒ  
われらをむかへてよろこびうたふ

dim. rit.

夏山の歌

a tempo mf

キラメクホシカゲコノミニーアビーテ  
きらめくほしかげこのみにーあびて

a tempo mf

cresc. f. decresc.

タナカノアゼミチシツカニタドラン  
つゆけきこみちをしづかにたどらん

cresc. decresc.

ララララ ララララ  
ララララ ララララ

ララララ ララララ  
ララララ ララララ

cresc. rit. a tempo

ノドカニアソバンタノシキコヨヒ  
のどかにあそばんたのしきこよひ

cresc. rit. a tempo



# 夏の山路

Moderato. *mf* Zelter.

一. オクヤマハ ヤー マオ ホヘルサ ギリ  
 二. みあぐるまつがえか かれるさぎり

シー タタルミードリハ テールヒニハ エツ  
 い かつきみきこそさな がらをろち

*cresc. poco a poco*

カ サナリアフ ハ カゲニト ケンゾナ ノレル  
 わ だかまれるね もとにやまゆりわ らへり

*cresc. poco a poco*

*mf* フ カー キタ ニ ヲーヘー ダ テ テ  
 き よー きみ づ にーのー ぞ み て

*mf*

# 夏の山路

森迫武

一 奥山端山 蔽へる狭霧  
 滴る緑は 照る日に映えつ  
 重り合ふ葉蔭に  
 杜鵑ぞ名告れる  
 深き溪を隔てて

二 瞻上ぐる松が枝かかれる狭霧  
 いかつき幹こそさながら大蛇  
 蟠れる根もとに  
 山百合わらへり  
 清き水に臨みて

# 納涼

東久米子

晝間の暑さの名残見せて  
 ほのほどもえたつ夕の雲に  
 紅そめなす入日のかげ  
 波間に落つるや沖も暮れぬ  
 やけたる真砂路いつか冷えて  
 しほかぜ涼しく渡る磯を  
 裳の裾かかげてひとり行けば  
 よせくる白波足をおそふ  
 すずみに来しかひありそ海の  
 波にも戯れ月にうたひ  
 更け行く夜さへ忘れはてて  
 遊ぶもたのしや夏の海邊

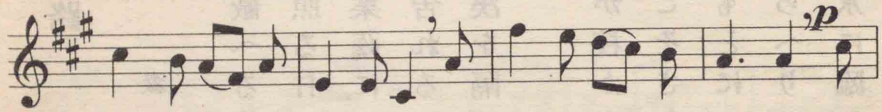
# 納涼

Allegretto grazioso.

Taki.



ヒ ル マ ノー ア ツ サ ノ ナ ゴ リ ミ セ テー ホ



ノ ホ ゴー モ エ タ ツ ユ フ ベ ノー ク モ ニ ク



レ ナ キ ソ メ ナ ス イ リ ヒ ノ カ ゲー ナ



ミ マ ニー オ ツ ル ヤ オ キ モ クー レ ヌー ヤ



ケ タ ルー マ サ ゴ チ イ ツ カ ヒ エ テー シ



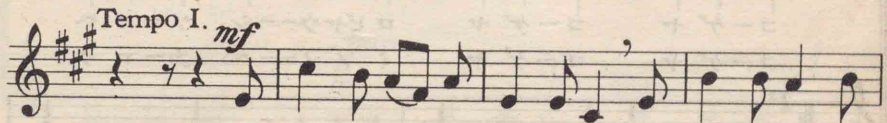
ホ カ ゼー ス ズ シ ク ワ タ ル イー ソ ラー モ



ノ ス ソ カ カ ゲ テ ヒ ト リ ユ ケ バー ヨ



セ ク ルー シ ラ ナ ミ ア シ ヲ オー ソ フー



ス ズ ミ ニー コ シ カ ヒ ア リ ソ ウ ミ



ノー ナ ミ ニ モー タ ハ ム レ ツ キ ニ ウー タ



ヒー フ ケ ユ ク ヨ ル サ ヘ ワ ス レ ハ テ



テー ア ソ ブ モ タ ノー シ ヤ ナ ツ ノ ウ ミ ベー

# 舟 唄

ロシア 民謡曲

Moderato.  
ppp

コーゲヤ コーゲヤ フナビート コーゲヤ

p

コーゲヤ コーゲヤ ロピヤウ--シ ソーロヘ  
コーゲヤ コーゲヤ ミヅノ--ヘ カーロク

mf cresc. mf

ウ タゴーエー ア ハセ ノ ドカーニー コゲヤ  
シ ヅカーニー ス ベリ ウ タヒーテ コゲヤ

mf cresc. mf

ミナギレル カハノモヲ ウタヒ--テ コーゲヤ  
ナガレクル ミヅノモヲ ワラヒ--テ コーゲヤ

dim. pp

コーゲヤ コーゲヤ ウ タヒ--テ  
コーゲヤ コーゲヤ ワ ラ ヒ--テ

ppp

コーゲヤ コーゲヤ コーゲヤ  
コーゲヤ

舟 唄

漕げや漕げや 舟人漕げや  
漕げや漕げや 櫓拍子揃へ  
唄聲合せ 長閑に漕げや  
漲れる河の面を 歌ひて漕げや  
漕げや漕げや 歌ひて漕げや  
漕げや漕げや 水の上軽く  
静かにすべり 歌ひて漕げや  
流れくる水の面を 笑ひて漕げや  
漕げや漕げや 笑ひて漕げや  
漕げや 漕げや

# 荒城の月

Andante.

Taki - Wakasa.

*mf*

一、ハルカウロウノハナノエシ  
 二、あきぢんえいのしものいろ  
 三、イマンクウジャウノハツキ  
 四、てんじやうかげはかはらねど

*mf*

メグルサクカヅキカゲサシテ  
 なきゆくかかりのずみせぞた  
 かいラこははうつるよのすめが

チヨノマツガエワケイデシムカシノ  
 ううるまつぎにりそひしむかしの  
 カキニスツルハハカハツナハあわ

I. II. III. IV.

ヒカリイマツイコシ  
 ひかりいまたいづらシよはのつき  
 じやうのハの

I. II. III. IV.

荒城の月

一 春高樓の花の宴  
 千代の松が枝わけいでして  
 鳴きゆく雁の數見せて  
 秋陣營の霜の色  
 植うる劍に照りそひし  
 今荒城のよはの月  
 垣に残るはたかためぞ  
 天上影は替らねど  
 榮枯は移る世の姿  
 寫さんとてか今もなほ  
 嗚呼荒城のよはの月

(中學唱歌)

# 晩 鐘

*Andante. mp* *Kücken.*

一. タ ニーヲ フカミ テラハ ミエーデ カ  
 ニ. た にーに ーの ベーに か ねーは ーひ びーき に

ネ ノ ヒ ビーキ イ マ キ コ ユ タ  
 し の そ らーに ひ は い り ぬ よ

ニ ーヲ ーメ グーリ ヤ マーヲ ーカ スーメ カ  
 る ーの ーと ばーり は やーも ーお りーて や

ナ タ コ ナー タ ナ リ ワ タ ル ム ラ ガ ラ  
 ま も か はーも い ま お ぼ ろ か ね の ね

ス イ ク ソ バ ク ソ ラ ニ ト ビ テ イ  
 は き え や ら で ひ び く そ ら に つ

# 鐘の人の聲

マ カ ヘ ル ナ ル カ ネ ノ ネーヲ ア ト  
 き い で ぬ も も と り の ねーぐ ら に

*mp cresc. dim.*

ニ カ ヘ ル ネ グ ラ イ マ ー シ ツ カ  
 て む す ぶ ゆ め も い ま ー や す し

	二		一	
	西谷		鐘谷	晩
響鐘	の	空む	の	鐘
く	山	に	を	
百空	夜	ら	深	
結	の	彼	み	
ぶ	音	方	今	
夢	は	此	寺	
も	も	幾	は	
	月	十	見	
	消	許	え	
	え	鳴	で	
	今	り	森	
	朧	渡	迫	
	や	る	武	
	ら	後		
	り	に		
	ぬ			
	き			
	で			

# 獵人の歌

Allgro. *p* Kücken.

一. フキ ナー ス フー エ ヤー  
二. さつ をー の うー た のー

カ リ ノ シ ラ ベ  
き よ き し ら べ

vivace. *f*

ミ ネ ニ オ コ リ タ ニー ニ コ タ フー  
た か く ひ び き ひ くー くな がるー

*f*

ワ カ キ サ ツ フ ノ ウ タ モ ヒー ビ  
あ は れ そー の こ ゑ た に の をー ち

*mp*

ケ リ ホ ガ ラ ニー タ カ ク ス ミ  
こ ち こ だ ま もー さ や に す み

*prit.* *pp* a tempo

テー ヒ ケ ル カ リ イ ヌ イ  
てー せ こ の よ び ご ゑ や

サ ミ ター チ テー フ エ ニ ア ハ  
ま を ゆー す りー う た に あ は

セー テ タ カ ク サー ケ ブ  
せー て た か く さー け ぶ

*f* *giocoso*

一. ニ. ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ

ラー ララ

ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ

菊の盃

Sostenuto.

Beethoven - Wakasa.

一 吹きなす笛や 獵の調  
 若きさつをの  
 朗に 高く澄みて  
 牽ける獵犬  
 勇み立ちて  
 笛に合わせて高く叫ぶ  
 ラララ、、

一 キクノシタカゲナガルルタニミツ  
 ニ きくのさかづきもろてにささげて

二 さつをの唄の 清き調  
 高く響き 低く流る  
 あはれその聲  
 谷の遠近  
 研も さやに澄みて  
 勢子の呼聲  
 山を揺り  
 唄に合わせて高く叫ぶ  
 ラララ、、

ウクルサカヅキキラトヒカール  
 きみのみさかえいはへいはへ

三 さつをの唄の 清き調  
 高く響き 低く流る  
 あはれその聲  
 谷の遠近  
 研も さやに澄みて  
 勢子の呼聲  
 山を揺り  
 唄に合わせて高く叫ぶ  
 ラララ、、

ササグルミカニハヨハヒゾコモレル  
 まがごときえうせおほみよのどけく

トモニクミナシチヨノシヅーク  
 いよよさかえんちときはかきーは

# 秋の夕暮

♩ = 112. スイス古曲

一 ハ ナ ヤ モ ミ チ ー モ オ  
 ニ こ こ ろ な き み ー も あ  
 三 ア ハ レ サ ビ シ ー ヤ イ

ヨ ブ モ ノ カ ー ハ ウ ラ ノ ト マ  
 は れ し れ と ー や し き た つ さ  
 ロ ハ ナ ケ レ ー ド マ キ タ ツ ヤ

ヤ ー ノ ア キ ノ ー ユ フ グ レ  
 は ー の あ き の ー ゆ ふ ぐ れ  
 マ ー ノ ア キ ノ ー ユ フ グ レ

## 菊の盃

一 菊の下蔭 流るる谷水  
 受くる盃 さらと光る  
 捧ぐる甕には  
 齢ぞ籠れる  
 共に汲みなん  
 千代の雫

二 菊の盃 諸手に捧げて  
 君の御榮 祝へ祝へ  
 禍事消え失せ  
 大御代長閑けく  
 いよよ榮えん  
 常磐堅磐

## 秋の夕暮

一 花や紅葉も  
 およぶものかは  
 浦の苫屋の秋の夕暮

二 心なき身も  
 あはれ知れとや  
 鳴たつ澤の秋の夕暮

三 あはれ淋しや  
 色はなけれど  
 槇たつ山の秋の夕暮

(小學唱歌集)



# 楽しき夜

Adagio.

Nyvett.

*mf* モ ノ ノ ネ タ エ ハ テ シ ヅ カ ニ フ ケ

*mp* ユ ク コ ヨー ヒー ヤ  
ホ シ ー カ ゲ キ ラ  
*mp* ホ シ ー カ ゲ キ ラ  
ホ シ カ ゲ キ

ー キー ラ コ ノ ヨー ラ マ モ リー テー ヨ ス ガー  
ラ キ ラ ヨ ス ガ

*cresc.* ラ マ タ タ ク ア ア ア コー ヨ ヒ ヤ  
*cresc.* ラ マ タ タ ク ア ア ア

Allegro.

*mf* タ ノ シ ク ネ ム リ テ ア ス ラ バ ー ム カ ヘ テ

テ ル ヒ ノ ヒ カ リ ニ ヒ ネ モ ス ー ツ ト メ ン

ウ タ ゴ エ ー ー ホ ガ ラ ニ ー ー  
ウ タ ゴ エ ホ ガ ラ ニ

*mp* ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ  
*mp* ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ

ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ  
ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ

楽しく眠りて 明日をば迎へて  
 照る日の光に 終日勤めん  
 歌聲朗らかに

ラララ、、、、、

あああ  
 あ 今宵や

物の音絶えはて 静かに更け行く 今宵や  
 星影きらきら 此の世を護りて 終夜またたく

楽しき夜

犬  
 童  
 球  
 溪

# 思 出

Andantino. *mp* Abt.  
 一ソバダツタカネ ミソラ --- ヲシノギ  
 二とやまのはやし このみ --- をひろひ  
  
*cresc.*  
 ナガルルヲガハマターマトクダケ  
 ふもとのさはべ・ねぜーりをたづね  
  
*p stringendo* *cresc.*  
 ハルハウララニ アキハサヤケシ  
 ちにしたがひ ははにつかへし  
  
*a tempo*  
*p*  
 オモ---ヒデツ---キーヌ アアアハレ  
 おも---ひでつ---きぬ あああはれ  
  
*p*  
 フルサト ナツカシヤフルサト  
 ふるさと なつかしやふるさと

# 秋の夜

Moderato.

Rubinstein.

*mf*

一. ミーソラトブカリガネーモミヂワケテナ  
 二. にーはにちるわくらばーはーらりはらりし

一. モミヂワケテナ  
 二. はらりはらりし

クシカ ナ  
 ぐれす す

クシカータビヂニモアキキヌー  
 ぐれすーこころなのあきかぜー

*mf*

一. ガキヨノツレツレツキノシ  
 一. きまもりみにしむむしのね

*mf*

ナガキヨノツレツレツキノシ  
 すきまもりみにしむむしのね

タハルーカニ  
 もかすーかに

タハルーカニ  
 もかすーかに

*mf*

フルサートノチチーコヒ  
 ふるさーとのーははーこひ

*mf*

フルサートノチチーコヒ  
 ふるさーとのーははーこひ

*mp*

シアキーノヨ  
 しあきーのよ

シ  
 し

國の誇

Allegro maestoso.

Mendelssohn - Wakasa.

思出

一時つ高嶺 み空を凌ぎ

流るる小川 眞玉と碎け

春は麗に 秋はさやけし

思出盡きぬ

ああ あはれ 故郷

なつかしや 故郷

二 外山の林 木の實を拾ひ

麓の澤邊 根芹を尋ね

父に従ひ 母に仕へし

思出盡きぬ

ああ あはれ 故郷

なつかしや 故郷

秋の夜

協太一

一 み空とぶかりがね

紅葉わけてなく鹿

旅路にも秋來ぬ

長き夜のつれづれ

月の下はるかに

ふるさとの父こひし

二 庭に散る病葉

はらりはらり時雨す

心無の秋風

すきまもり身にしむ

蟲の音もかすかに

ふるさとの母こひし

秋の夜

# 我が友

Andante.

Wrighton.



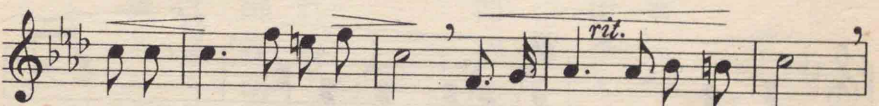
一. ヲガハノナガレヲブネヲウカ、ベ  
二. こきやうのつちにしたしむともと



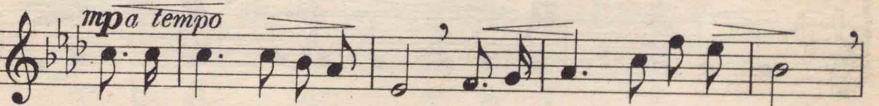
ナギサノホトリテニテヲトリテ  
みやこのそらにいそしむわれと



コシカタカタリユクスエチカヒ  
うみやまとはきさかひにすめど



タガヒニハゲミカタミニムツブ  
こころはとほにへだてぬよしみ



オモヘバヒサシミトセノムカシ  
われいまでもをしのびてあれば



ワカレシトモノイマハタイカニ  
ともまたわれをおもひてあらん

## 國の誇

一 旭に匂へるみ山の櫻

繚亂比もあらしにきほひ

み雪と散りて微塵の憾も

遺さぬ其の様揚げば麗し

さながらみ國に殉ずる魂

これこそまこと國の誇

二 み空に秀づる富士の神山

玲瓏比もしら雪かづき

姿を清め幾代の末まで

動かぬ其の様揚げば尊し

さながら神代の神勅をその儘

これこそまこと國の誇

## 我が友

一 小川の流小舟を浮べ

渚のほとり手に手をとりにて

來し方語り行末誓ひ

互に勵みかたみに睦ぶ

おもへば久し三年の昔

別れし友の今はたいかに

二 故郷の土に親む友と

都の空にいそしむ我と

海山遠き境に住めど

心はとはに隔てぬ誼

我今友を偲びてあれば

友亦我を憶ひてあらん

森 迫 武

# 夜の森

Tranquillo. Kuhlau.

一 フクロフナクナルヨルノモリ  
二 やまつみまつれるもりのかげ

サビシソゾロニヤマビコモシ  
すごしそぞろにみあかしもか

ジマカゼハイツラハモ  
すかかねとりたてるそら

ササヤカズコノマカスメツキ  
みあぐればほしはながるを

ク ラ キ ヨ ヤ  
く ら き よ や  
イ マ オ チ ヌ  
な が く し て  
く ら き よ や

## 夜の森

一 梟鳴くなる 夜の森寂し 漫に  
山彦も しじま  
風はいづら 葉も囁かず  
木の間掠め 月今落ちぬ  
暗き夜や

二 山祇祀れる 森の陰凄し 漫に  
御燈明も 幽  
寝鳥立てる 空見上ぐれば  
星は流る 尾を長くして  
暗き夜や

# 羊飼の歌

Allegretto. *mf* ドイツ歌謡曲

一. ム ラ ガ ル ヒ ツ ジ ヲ カ リ ユ ク コ ノ ミ モ  
 二. あ した の ひ か り の さ し こ ぬ さ き よ り  
 三. ワ ガ フ ム イ ハ ネ ハ ノ ガ ハ ノ ミ ナ カ ミ  
 四. す は や と い ふ ま に あ ら し は く る ひ て

クワ ン キ ト ジ イ ウ ニ ア シ ド リ カ ロ シ ヤ  
 ゆ ふ づ く ひ か げ の い り ぬ る の ち ま で  
 タ マ カ ト ス ム ミ ツ ム ス ビ テ ウ タ ヘ バ  
 み な み に う そ ぶ き き た に ぞ ほ え け る

*dolce*

ク モ キ リ ハ ラー ヒー テ ワ ガー ウー タ ホ ガー ラー カ  
 ヘ い わ の て んー ちー に た だー わー れ う たー はー ん  
 ミ ネ ミ ネ タ ニー ダー ニ ト ヨー モー ス ヤ マー ビー コ  
 さ れ ど も わ がー うー た す るー どー く ひ びー けー り

(一、二、三、四)ラ ラーラーラーラー

# 羊飼の歌

一 群がる羊を

驅り行く此の身も

歡喜と自由に

足どり輕しや

雲霧拂ひて

我が歌朗か

ラララララ

二 晨の光の

さし來ぬ先より

夕づく日影の

入りぬる後まで

平和の天地に

ただ我歌はん

ラララララ

三 我が踏む岩根は

野川の水上

玉かと澄む水

掬びて歌へば

峯峯谷

とよもす山彦

ラララララ

四 すはやと言ふ間に

嵐は狂ひて

南に嘯き

北にぞ吠えける

されども我が歌

鋭く響けり

ラララララ

# 我が水手

Moderato.

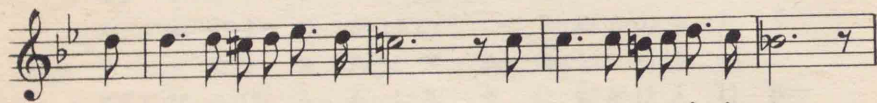
Knight.



一 タユタフヲブネ ニ カチトル ワガカコ  
ニ まどひのあだなみ へさきに くだきて



ソ コヒモシラナ ミ ワタツ ミ コギユク  
あ やなすしぶきは おもひの はなかや



ナ レラガユクテ ハ アヲミノアナタノ  
な れらがゆくては あをみのあなたの



マ コトノミチタル サヤケキセカイヨ  
ひ かりもあまねき はるけきくがぢよ



ミ ソラノヒカゲハ ナガヒヨマモラン  
み そらのつきほし ながよをまもらん

## 我が水手

友近季一

一 たゆたふ小舟に 舵とる我が水手  
底ひも白波 わたつみ漕ぎ行く

汝等が行手は

青海のあなたの

眞の満ちたる

さやけき世界よ

み空の日影は 汝が日を守らん

二 まどひの仇波 舳先に碎きて

あやなす飛沫は 想の華かや

汝等が行手は

青海のあなたの

光も遍き

遙けき陸地よ

み空の月星 汝が夜を守らん

## 霜の旦

一 有明の月も

寒き霜の旦

里川の橋の上

銀を敷きて

重荷負ひ引かれ行く

馬の息白し

二 朝日子の光

鈍き冬の旦

裏山の落葉皆

露霜に濡れて

木梢にて騒ぎ鳴く

鳥の聲寒し



# 霜の旦

Lento.

ボヘミア民謡曲

一. アリアケノツキモサムキシモノ  
二. あさひこのひかりにぶきふゆの

一. アシタサトガハノハシノウヘ  
二. あしたうらやまのおちばみな

一. シロガネヲシキテオモニオヒ  
二. つゆしもにぬれてこぬれにて

一. ヒカレユクウマノイーキシロシ  
二. さわぎなくとりのこゑさむし

# 遊獵

Allegro.

Weber - Wakasa.

一. ユズエフリータテオドロヲフミーコーエ  
二. タカヲテーニスエアラノニワケイーリ

一. トホクニゲユクヲジカイトメ  
二. タカクトビータツキギストラセ

一. カヘルヤマチカシコココニサクラカ  
二. いはのかげにおちばたきてわりごひ

ザ シ モ ミ チ ヲ レ ル ム カ シ ビ ト ノ カ  
 ら き ひ る げ と り て け ふ の え も の か

リ ノ オー モー カ ゲ ミ ル モ ユ カ シ ウ タ ニー フ ミ  
 く は あー り き と る み て ほ こー る や まー の さ ち

ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ  
二を

ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ

ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ

ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ

ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ

ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ

遊 獵

堀澤 鹿 峽

一 弓末振立て 棘を踏越え  
 遠く逃げ行く 牡鹿射止め  
 鷹を手に据ゑ 荒野に分入り  
 高く飛立つ 雉子捕らせ  
 歸る山路 彼處此處に  
 櫻かざし 紅葉折れる  
 昔人の 獵の面影  
 見るもゆかし 歌に文にララ、

二 火筒携へ 身輕の出立  
 谷をさ渡り 沼を廻り  
 犬をしるべに 打てるや何何  
 鳩に鵜に 鴨も交る  
 岩の陰に 落葉焚きて  
 割子開き 晝餉とりて  
 今日獲物 斯くは有りきと  
 笑みて誇る 山の幸をララ、

追 憶

森 迫 武

一 夕日は春き鴉は罫  
 夕の帷は遠近こめつ  
 折しも登れるみ空の月影  
 仰げばしぬばる過ぎ行きし昔  
 あ 盡させぬ想

二 鐘の音響きて星影まばら  
 夕闇せまりてあたりはおぼろ  
 折しも響ける闇路の笛の音  
 聞きつつしぬばる過ぎ逝きし昔  
 あ 盡させぬ想

追 憶

Andante. スペイン歌謡曲

*mp*

一. ユ フ ヒ ハ ウ ス ツ -- キ カ ラ ス ハ ネ グ  
 二. か ね の ね ひ び き -- て ほ し か げ ま ば

*mp*

ラ -- ユ フ ベ ノ ト バ リ -- ハ  
 ら -- ゆ ふ や み せ ま り -- て

*f*

ヲ チ コ チ コ メ ツ ヲ リ シ モ ノ ボ  
 あ た り は お ぼ ろ を り し も ひ び

*mf*

レ -- ル ミ ソ ラ ノ ツ キ カ -- ゲ  
 け -- る や み ぢ の - ふ え の -- ね

*mp*

ア フ ゲ バ シ ヌ バ -- ル ス ギ ユ キ シ ム カ  
 き き つ つ し ぬ ば -- る す ぎ ゆ き し む か

*p*

シ ア ツ キ セ ヌ オ モ ヒ  
 し あ つ き せ ぬ お も ひ

# 希望の囁

Moderato.

Hawthorne.

*mf*

一 ソ ラ ニ ヒ ー ビ ク ハ カ ミ ノ  
二 よ る の と ー ば り は ち か く

ミ コ エ カ ー オ モ ヒ ナ ヤ メ  
せ ま り て ー く ら き や み ぢ

ル ー ム ネ ニ サ サ ヤ ク ー  
に ー こ こ ろ し づ め ど ー

ツ ユ モ ユ ル ブ ナ ー カ タ キ  
あ ふ ぐ み そ ら に ー ほ し は

*rit.* *a tempo*

ヲ ゴ コ ロ ー ユ メ ナ ワ ス レ  
ま た た き ー た か き の ぞ み

ソ ー ト ホ キ ノ ゾ ミ ヲ ー  
を ー わ れ に さ さ や く ー

(一・二)ノ ー ゾ ミ ア ー ル ソ ノ  
ノ ー ゾ ミ ア ー ル ノ ノ

ノ ゾ ミ ヨ ノ ゾ ミ ヨ ノ ゾ ミ  
ノ ゾ ミ ヨ ノ ゾ ミ ヨ ノ ゾ ミ

ー ミ ニ ゾ ー ヨ ー ノ サ  
ー ミ ラ バ ー ヨ ー ノ ヒ

ア ル ソ ノ ミ ニ ゾ ヨ ノ サ チ  
ア ル ソ ノ ミ ラ バ コ ノ ヨ ノ

チ ー ハ ウ マ ー レ コ シ ー  
カ ー リ テ ラ ー サ マ シ ー

ヨ ノ サ チ ヤ ガ テ ー ウ マ レ シ  
コ ノ ヨ ノ ヒ カ リ ー テ ラ サ シ

# 旅の思

スウェーデン 民謡曲

Tranquillo.

一. ヒ ト リ タ ビ ハ モ ノ ミ ナ サ ー ビ シ  
二. や ま も か は も お も む き か は り

decresc. et rit.

マ シ テ ハ ル ケ ク キ ツ ル ニ イ マ ハ  
ひ と の こ と ば も こ と なる も の を

decresc. et rit.

a tempo pp

三. ア ア カ シ コ シ チ ー チ ハ ハ イ ー ヘ ニ

a tempo pp

poco a poco smorz.

ツ ツ ガ ナ カ レ ト ー イ ノ ラ ス モ ヘ バ

poco a poco smorz.

## 希望の囁

犬 童 球 溪

一 空にひびくは神のみ聲か

思ひ悩める胸にささやく

つゆも弛ぶな堅き雄心

ゆめな忘れそ遠き望を

望あるその身にぞ  
望よ望よ望あるその身にぞ

世の幸は生れ來ん  
世の幸世の幸やがて生れん

望あるその身をば  
望よ望よ望あるその身をば

世の光照らさまし  
この世のこの世の光照らさん

二 夜の帷は近く迫りて

暗き闇路に心沈めど

仰ぐみ空に星はまたたき

高き望を我にささやく

望あるその身にぞ  
望よ望よ望あるその身にぞ

世の幸は生れ來ん  
世の幸世の幸やがて生れん

望あるその身をば  
望よ望よ望あるその身をば

世の光照らさまし  
この世のこの世の光照らさん

旅の思

山田 實

一ひとり旅は 物皆さびし  
 況して遙けく 來つるに今は

二山も川も趣變り  
 人の言葉も 異なるものを

三ああかしこし 父母家に  
 恙なかれと 祈らす思へば

何時かまた

堀澤 鹿峽

一年月長く 教を受け ああ  
 馴れにし師の君 今日船出 ああ  
 人波分けて 見送る袖に  
 涙しとど 早も別か  
 やや師の君眞幸くおはせ  
 何時かまた まみえん

二學の窓の 明暮見し ああ  
 友に別れて 出づる旅路 ああ  
 烟を吐きて 車は待てど  
 名残盡きず 時ぞ迫れる  
 さらば我が友眞幸くあれや  
 何時かまた 相見ん

何時かまた

Moderato. Lindblad.

一ト シツキ ナ ガ ク ヲ シ ヘ ヲ ウ ケ アア  
 二ま なびの ま どの あ け くれ み し ああ

ナ レ ニ シ シ ノ キ ミ ケ フ ノ フ ナ デ アア  
 と も に わ か れ て い づ る た び ぢ ああ

ヒ ー ト ナ ミ ワ ケ テ ミ ー オ ク ル ソ デ ニ  
 け ー む り を は き て く ー る ま は ま て ど

ナ ミ ダ シ ト ド ハ ー ヤ モ フ  
 な ご り つ き ず と ー き ぞ せ

カ レ カ ヤ ー ヨ ヤ シ ノ キ ミ マ ー サ キ ク  
 ま れ る さ ー ら ば わ が と も ま ー さ き く

オ ハ セ イ ー ツ カ マ タ マ ミ エ ン  
 あ れ や い ー つ か ま た あ ひ み ん

# 谷間の流

Lento. *mp* Saint-Saëns - Wakasa. *pp*

一、チルハナライザナヒテ  
ニ、ちるもみちいざなひて

セセラゲルタニミツヨ  
せせらげるたにみづよ

ヒトモシラヌミヤマノイハカ  
ひともめでぬみやまのみに

ゲニニホヘルソノハナ  
をにあやおるもみちを

ヨノヒトニシラスト  
よのひ

とにみせんと

谷間の流

二散る紅葉誘ひて	一散る花を誘ひて
人も愛でぬ	人も知らぬ
綾織る紅葉を	深山の岩陰に
深山の峯に尾に	世へる其の花
世の人に見せんと	世の人に知らずと
	谷水のよ

水

Allegro grazioso.

Hauptmann.

*dolce*

一. コケシミツ アツマリナガ レ コ シン コ シン ウ  
 二. みづのおも かがみとすみ て や う や う め

*dolce*

一. コケシミツ アツマリナガ  
 二. みづのおも かがみとすみ

ミ ニ ソ ソ グ イ ハ ネ ヲ カ ミ テ シ ラ ナ ミ ア ゲ  
 ぢ も は る か は れ た る そ ら に か か れ る つ き

レ テ コ ヤ シ ヲ コ ヤ シ ヲ ウ め ミ ぢ も は る か は れ

*dolce*

一. コケシミツ アツマリナガ レ コ シン コ シン ウ  
 二. みづのおも かがみとすみ て や う や う め

テ モ ノ タ ス マ ゴ ダ イ チ ユ ラ グ ワ タ  
 も ま た ま と そ こ に し づ む さ ざ

ネ ヲ カ ミ テ シ ラ ナ ミ ア ゲ テ モ ノ タ ス マ ゴ ダ  
 た る そ ら に か か れ る つ き も ま た ま と そ

ミ ニ ソ ソ グ イ ハ ネ ヲ カ ミ テ シ ラ ナ ミ ア ゲ  
 ぢ も は る か は れ た る そ ら に か か れ る つ き

ツ ミ サ ケ ビ テ ワ ガ ヲ ハイ マ ヤ ヲ ハ リ モ コ  
 ら な み た て ば こ が ね と く だ け し ろ が ね ち

イ チ ユ ラ グ ワ タ ツ ミ サ ケ ビ テ ワ ガ ヲ ハイ マ  
 こ に し づ む さ ざ ら な み た て ば こ が ね と く だ

テ モ ノ タ ス マ ゴ ダ イ チ ユ ラ グ ハ ゲ  
 も ま た ま と そ こ に し づ む す ず

*dolce*

シ ト オ ボ ユ ナ ガ ル ル ミ ツ コ ソ イ ミ ジ  
 り て な が る た だ よ ふ み づ こ そ い み じ

ヤ ヲ ハ リ ト コ ソ オ ボ ユ レ ミ ツ コ  
 け し ろ が ね ち る き ら ら と み づ こ

*dolce*

シ キ ソ ノ サ マ イ カ ニ ヤ イ カ ニ ナ ガ ル ル ミ ツ コ  
 し き そ の さ ま い か に や い か に た だ よ ふ み づ こ

*p*

ク ク ス シ ク ア レ  
 く す ず し く あ れ

ソ ク ス シ ク ア レ  
 そ す ず し く あ れ

*p*

ソ ク ス シ ク ア レ  
 そ す ず し く あ れ



水

(第一聲)

一 苔清水  
集り流れ  
混混  
海に注ぐ  
巖根を噛みて  
白波揚げて  
物凄  
大地揺ぐ  
わたつみ叫びて  
我が世は今や  
終も来しと覺ゆ  
流るる水こそ  
いみじく  
奇しくあれ

森

迫

武

(第二聲)

苔清水  
集り流れ  
混混  
海に注ぐ  
巖根を噛みて  
白波揚げて  
物凄  
大地揺ぐ  
わたつみ叫びて  
我が世は今や  
終とこそ覺ゆれ  
水こそ  
奇しくあれ

(第三聲)

苔清水  
集り流れ  
混混  
海に注ぐ  
巖根を噛みて  
白波揚げて  
物凄  
大地揺ぐ  
はげしき其の様  
いかにやいかに  
流るる水こそ  
奇しくあれ

二

(第一聲)

水の面  
鏡と澄みて  
洋洋  
目路も遙か  
晴れたる空に  
懸れる月も  
眞玉と  
底に沈む  
さざら波立てば  
黄金と碎け  
銀散りて流る  
漂ふ水こそ  
いみじく  
涼しくあれ

(第二聲)

水の面  
鏡と澄みて  
洋洋  
目路も遙か  
晴れたる空に  
懸れる月も  
眞玉と  
底に沈む  
さざら波立てば  
黄金と碎け  
銀散るきららと  
水こそ  
涼しくあれ

(第三聲)

水の面  
鏡と澄みて  
洋洋  
目路も遙か  
晴れたる空に  
懸れる月も  
眞玉と  
底に沈む  
涼しき其の様  
いかにやいかに  
漂ふ水こそ  
涼しくあれ

# 人魚の歌

Molto animato.

Richards - Wakasa.

Solo, 1st Voice

ミーソーラヒタセルーハーテナキウミコソー

ワーガムレニンギヨノータノーシキクニ

Solo, 2nd Voice.

ホーカゲオヒーツツカモーマアソビ

Solo, 3rd Voice.

タヘーナルーワガーウタカゼーニノリテー

animato

シラーナミハナーサクカナータニヒビク

a tempo

タノーシキスミーカヤカガーミノウミー

con spirito

ff

シブキヲサソヒテヨセークルナ

ff

ミーノヘフオバタタタキテウ

pp

ターヒヲドルアアタノシヤ

pp

pp

アアウレシヤアーア

pp

人魚の歌

(第一聲獨唱)

み空浸せる果無き海こそ

我が群人魚の

樂しき國

(第二聲獨唱)

帆影追ひつつ鷗遊び

(第三聲獨唱)

妙なる我が歌風に乗りて

白浪花咲く彼方に響く

樂しき棲處や鏡の海

(合唱)

飛沫を誘ひて寄せ來る波の上

舷叩きて歌ひ踊る

ああ 樂しや

ああ 嬉しや

ああ 歌ひ踊れや

飛沫を誘ひて寄せくる波の上

満潮干潮に歌ひ踊る

人魚の群

あはれ樂し

ウー タ ヒ ヲ ドー レ ヤ シ ブ キ ヲ サ

ソ ヒ テ ヨ セー ク ル ナ ミー ノ ヘ ミ チ シ ホ ヒ

シ ホ ニ ウ タ ヒ ヲ ド ル ー

ニ シ ヲ ノ ム レー ア ハ レ タ ノ ジー

# 少女のまどゐ

Allegretto.

Motoori.

*mf*

一. シバノムシーロニワヲエガキ  
ニ. ひかげもりこぬこのしたに

*mf*

ワラヒターハレテタノシゲニ  
みはるひとみもいきいきと

ツドフヲトメゴコテフカハナカ  
をどるをひとめぐことりかはなか

ウキヨノアラシノフクハイツコ  
うきよのあらなみよるはいづこ

*p*

ウタニツレテヲドルサマハ  
しろきもすそなびくさまは

*f*

ミホノハーマベノマヒノヒメカ  
たごのうらわのまひのひめか

*p*

ソレハイニシヘコレハイマ  
それはいにしへこれはいま

*f rit.*

ラララ ララララ ララララララ ラ  
ラララ ララララ ララララララ ラ

# 楽典

## 1. 既習の長音階構成の表

ハ 調

(音名) ハ ニ ホ ヘ ト イ ロ ハ  
(階名) Do Re Mi Fa Sol La Si Do

ト 調

(音名) ト イ ロ ハ ニ ホ 嬰ト  
(階名) Do Re Mi Fa Sol La Si Do

ヘ 調

(音名) ヘ ト イ 嬰ハ ニ ホ ヘ  
(階名) Do Re Mi Fa Sol La Si Do

### 嬰種長音階の構成に関する要項

- (1) ハ調長音階の第一度たるハ音を基點とし、之より逐次上方完全五度の位置に(即ちハ→ト→ニ……)の如き順序に新音階の第一度を求める。
- (2) 即ち舊音階の完全第五度は常に新音階の第一度となる。
- (3) 又舊音階の第四度は常に半音程上昇して新音階の第七度となる。
- (4) 斯くの如くにして逐次嬰音一個を増加させる。

### 少女のまどろ

一 芝の庭に輪をゑがき

笑ひ戯れて樂しげに

集ふ少女子胡蝶か花か

うき世の嵐の

吹くはいづこ

歌につれて踊るさまは

三保の濱邊の舞の姫か

それは古へ

これは今

ラララ、、、

### 犬 童 球 溪

二 日影漏り來ぬ木の下に

見張る眸も生々と

踊る少女子小鳥か花か

うき世の荒波

寄るはいづこ

白き裳裾なびくさまは

田子の浦回の舞の姫か

それは古へ

これは今

ラララ、、、

<p>ニ 調</p> <p>(音名) ニ ホ 嬰ト イ ロ 嬰ニ (階名) Do Re Mi Fa Sol La Si Do</p>	<p>變ロ 調</p> <p>(音名) 嬰ロ ハニ 嬰ホ ヘ ト イ 嬰ロ (階名) Do Re Mi Fa Sol La Si Do</p>
<p>イ 調</p> <p>(音名) イ ロ 嬰ニ ホ 嬰イ (階名) Do Re Mi Fa Sol La Si Do</p>	<p>變ホ 調</p> <p>(音名) 嬰ホ ヘ ト イ 嬰ロ ハニ 嬰ホ (階名) Do Re Mi Fa Sol La Si Do</p>
<p>ホ 調</p> <p>(音名) ホ 嬰ハ 嬰イ ロ 嬰ニ ホ (階名) Do Re Mi Fa Sol La Si Do</p>	<p>變イ 調</p> <p>(音名) 嬰イ 嬰ロ ハニ 嬰ホ ヘ ト 嬰イ (階名) Do Re Mi Fa Sol La Si Do</p>

變種長音階の構成に関する要項

- (1) ハ調長音階の第一度たるハ音を基點とし、之より逐次下方完全五度(上方完全四度)の位置に(即ちハ→ヘ→變ロ… の如き順序に)新音階の第一度を求める。
- (2) 即ち舊音階の完全第四度は常に新音階の第一度となる。
- (3) 又舊音階の第七度は常に半音程下降して新音階の第四度となる。
- (4) 斯くの如くにして逐次變音一個を増加させる。

2. 音 階

嬰種短音階の構成 基本音のみによつて構成されてゐるイ調(基礎)短音階の第一度イを基點として、之より逐次上方完全五度の位置に新音階の第一度を求めて各調の嬰種短音階を構成すること、嬰種長音階の場合と全く同一である。

次に各調の嬰種短音階を其の構成の順序によつて、其の関係長音階と共に併記對照して表示する。

<p>イ 調 短音階</p>	<p>ハ 調 長音階</p>
<p>ホ 調 短音階</p>	<p>ト 調 長音階</p>
<p>ロ 調 短音階</p>	<p>ニ 調 長音階</p>
<p>嬰ハ 調 短音階</p>	<p>イ 調 長音階</p>
<p>嬰ハ 調 短音階</p>	<p>ホ 調 長音階</p>

基礎短音階 長音階の第六度より其の上方八度の同名音にいたる八音の音列と全く同一のもの。

和聲的短音階 基礎短音階の第七度を變化記號によつて半音程

嬰<sup>ト</sup>調短音階      □調長音階

嬰<sup>ニ</sup>調短音階      嬰<sup>ヘ</sup>調長音階

嬰<sup>イ</sup>調短音階      嬰<sup>ハ</sup>調長音階

**變種短音階の構成** イ調短音階の第一度イを基點として、逐次下方完全五度即ち上方完全四度の位置に新音階の第一度を求めて各調の變種短音階を構成すること、變種長音階の場合と全く同一である。次に各調の變種短音階を其の構成の順序によつて、其の關係長音階と共に併記對照して表示する。

ニ調短音階      ヘ調長音階

ト調短音階      變□調長音階

上昇させて、第七度第八度間を半音程としたもの。

**旋律的短音階** 和聲的短音階の上行に於て、第六度第七度間に生ずる増二度音程の進行を避けんが爲に、更に第六度を變化記號によつて半音程上昇させたもの。但し其の下行に於ける第六度及び第七度は概ね基礎短音階のそれと同一である。

ハ調短音階      變木調長音階

ヘ調短音階      變イ調長音階

變□調短音階      變ニ調長音階

變木調短音階      變ト調長音階

變イ調短音階      變ハ調長音階

**音階各度の名稱** 音階の各度には長短兩音階とも次の如き名稱が附されて居る。

長音階

短音階

主 上 中 下 屬 下 導 主

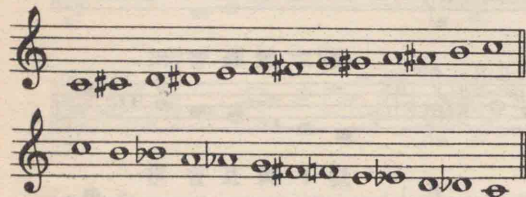
音 音 音 音 音 音 音

(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8)

**全音階** オクターヴ (octave) 中に五全音と二半音とを含むものは之を**全音階**と稱する。基本音の音列中其の何れの部分をとるも、八音の音列は全音階をなすものである。



半音階 オクターヴを十二半音、即ち十二個の半音



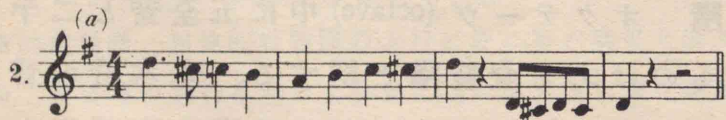
程を以て上行又は下行するものは之を半音階と稱する。

### 3. 移 調

移調 楽曲を其の拍子、音程、音符の價值等を變更することなく、其の儘本來の調より或他の調に移して記載又は奏唱することは之を移調と稱する。

樂譜が移調して記載される場合には、特に臨時記號と調子記號との關係について考慮されるべきものである。

次の各例に於て(b)は何れも(a)の移調されたものである。



尙楽曲が其の途中に於て他の調に移り行くことは之を轉調と稱し、轉調に於ては常に新調の構成に必要な變化記號の使用されるものである。轉調中、其の最も多く行はれるものは、長調に於ては其の調の第五度上の長調に、短調に於ては其の關係長調に移り行くものである。

### 4. 音 程

#### 各種音程の表

音程の度数	一 度		二 度		
	完全	増	長	短	増
音程の名稱	完全	増	長	短	増
音程中に含む半音の數	0	1	2	1	3

三 度				四 度			五 度		
長	短	減	増	完全	減	増	完全	減	増
4	3	2	5	5	4	6	7	6	8

全音階的音程 長音階又は短音階等、全音階と稱されるものの中に自然に存在する音程は之を全音階的音程と稱し、其の性質によつて完全、長、短、増、減等の名稱が附される。



六 度				七 度			八 度	
長	短	減	増	長	短	減	完全	増
9	8	7	10	11	10	9	12	13

**協和音程と不協和音程** 音程中、之を構成する二音を同時に奏唱した場合、其の響のよく聴者に融合調和の感を與へるものは**協和音程**、然らざるものは之を**不協和音程**と稱する。

**協和音程** 協和音程に屬するものは、すべての完全音程並に三度及び六度の長短兩音程であるが、之は尙其の融合調和の度合によつて次の如くに區別される。

協和音程 { 完全協和音程……すべての完全音程。  
不完全協和音程……三度及び六度の長短兩音程。

**不協和音程** 不協和音程に屬するものは、二度及び七度の長短兩音程並にすべての増減兩音程である。

**半音階的音程** 全音階的音程が變化記號によつて半音程増減されたものは之を半音階的音程と稱し、完全音程又は長音程の増大されたものは増音程、完全音程又は短音程の縮小されたものは減音程と呼ばれる。

尙半音程中、二度に亘るものは全音階的半音、同度上のもは半音階的半音と稱される。

## 5. 装 飾 音

(a) 長倚音

記法  
奏法

此の記法は近代に於ては殆ど使用されない。最初から奏法の如くに記譜されるのを常とする。

(b) 短倚音 (c) 滑奏音

記法  
奏法

(d) 廻音

記法  
奏法

## 6. 速度標語の表

楽曲或は樂節の始に於て其の速度を示すもの

標語	訓み方	意義
lento	レント	最も緩く
largo	ラルゴ	幅広く且緩く
larghetto	ラルゲット	largo よりも稍早く
adagio	アダージョ	徐かに
andante	アンダンテ	稍緩く (歩むが如く)
andantino	アンダンティノ	andante よりも稍早く (allegretto に近き速度)
moderato	モデラート	中庸速度に
allegro	アレグロ	急速且活潑に
allegro moderato	アレグロモデラート	適度に早く (略 allegro に同じく)
allegretto	アレグレット	allegro よりも稍遅く
presto	プレスト	allegro よりも更に速く
prestissimo	プレスティッシモ	presto よりも更に速く
tempo di marcia	テンポディマルチャ	行進曲の速度にて (andante 位の速度)

楽曲の途中に於て速度の變化を示すもの

標語	略號	訓み方	意義
ritardando	rit. 又は ritard.	リタルダンド	漸次速度を弛めて
rallentando	rall. 又は rallent.	ラルレンタンド	同上
ritenuto	riten.	リテヌート	本来の速度よりも幾分遅く

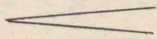
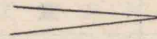
accelerando	accel.	アツェレランド	次第に早く
stringendo	string.	ストリンヂェンド	同上
ad libitum	ad lib.	アドリビトゥム (拉典語)	(奏者の) 任意に
a tempo		アテンポ	本来の速度にて
tempo I		テンポ プリーモ	始の速度にて
l'istesso tempo		リステッソ テンポ	前の速度と同一の速度にて

他の標語の意味を限定するために用ひられる標語

標語	訓み方	意義
poco	ポコ	少し
poco a poco	ポコアポコ	次第に
meno	メノ	より少く
più	ピウ	より多く
assai	アッサイ	充分に
molto	モルト	極めて
non troppo	ノントロッポ	甚だしくなく
ma non troppo	マノントロッポ	然し甚だしくなく

## 7. 發想標語並に發想記號の表

標語	略號又は記號	訓み方	意義
piano	p.	ピアノ	弱く


pianissimo	pp	ピ ア ニ ッ ス イ モ	極 め て 弱 く
mezzo piano	mp	メ ヅ ヅ オ ビ ア ノ	稍 弱 く
forte	f	フ オ ル テ	強 く
fortissimo	ff	フ オ ル テ イ ッ ス イ モ	極 め て 強 く
mezzo forte	mf	メ ヅ ヅ オ フ オ ル テ	稍 強 く
crescendo	cresc.	ク レ シ ャ ン ド	漸 次 強 く
		同 上	同 上
decrescendo	decresc.	デ ク レ シ ャ ン ド	漸 次 弱 く
		同 上	同 上
diminuendo	dim.	デ イ ミ ヌ エ ン ド	漸 次 弱 く
smorzando	smorz.	ズ モ ル ツ ァ ン ド	漸 次 弱 く 且 遅 く
sforzando	sf 又は fz	ス フ オ ル ツ ァ ン ド	特 に 強 く
	> 又は ^	同 上	同 上
fortepiano	fp	フ オ ル テ ビ ア ノ	強 く 直 に 弱 く
agitato		ア チ タ ー ト	激 し て
alla marcia		ア ル ラ マ ル チ ャ	行 進 曲 風 に
animato		ア ニ マ ー ト	威 勢 よ く
brillante		ブ リ ル ラ ン テ	華 麗 に
cantabile		カ ン タ ー ビ レ	歌 ぶ が と く 表 情 豊 かに
comodo		コ モ ド	氣 樂 に
commodo		コ ッ モ ド	同 上
con grazia		コ ン グ ラ ツ ィ ア	高 雅 に

con gusto		コ ン グ ス ト	趣 味 を 以 て
con moto		コ ン モ ト	い き い き と
con spirito		コ ン ス ピ ー リ ト	精 神 を こ め て
dolce		ド ル チェ	柔 か に
energico		エ ネ ル チ コ	元 氣 に
espressivo	espres.	エ ス プ レ ッ ス イ ヴ オ	表 情 豊 かに
giocoso		ジョ コ ー ソ	面 白 さ う に
grave		グ ラ ー ヴェ	莊 重 に
grazioso		グ ラ ツ ィ オ ー ソ	高 雅 に
legato		レ ガ ー ト	圓 滑 に
leggiero		レ ッ チェ ー ロ	輕 く
maestoso		マ エ ス ト ー ソ	莊 嚴 に
marcato	> 又は ^	マ ル カ ー ト	力 強 く
marziale		マ ル ツ ィ ア ー レ	尙 武 的 に
mosso		モ ッ ソ	活 潑 に (早 く)
scherzando		ス ケ ル ツ ァ ン ド	諧 謔 的 に
semplice		セ ン プ リ チェ	飾 る こ と な く 純
sostenuto		ソ ス テ ヌ ー ト	音 符 の 歷 時 を 充 分 保 ち て
tenuto		テ ヌ ー ト	同 上
tranquillo		ト ラ ン ク イ ル ロ	靜 か に
tristo		ト リ ス ト	悲 し く
vivace		ヴィ ヴ ァ ー チェ	快 活 且 迅 速 に

# 和 聲 論

## 1. 三 和 音

二個以上の音を三度の関係によつて結合したものは之を和音と稱し、尙和音の連続進行するものを和聲と稱する。



和音中、根音、其の第三度及び第五度の三音よりなつたものは之を三和音と稱し、次の四種がある。

- (1) 根音、其の長三度及び完全五度よりなる長三和音。
- (2) 根音、其の短三度及び完全五度よりなる短三和音。
- (3) 根音、其の長三度及び増五度よりなる増三和音。
- (4) 根音、其の短三度及び減五度よりなる減三和音。



(1) 長三和音 (2) 短三和音 (3) 増三和音 (4) 減三和音

之等の和音は其の性能によつて長三和音(1)及び短三和音(2)は協和々音又は獨立和音、増三和音(3)及び減三和音(4)は不協和々音又は不獨立和音と稱され、協和々音(獨立和音)は更に普通和音とも稱される。

## 2. 長短兩音階各度上の三和音

長短兩音階の各度上に構成された各三和音の種別、名稱及び和聲練習上の表示法を示せば次の如くである。

長音階各度上の三和音							短音階各度上の三和音							
種別	長	短	短	長	長	短	減	短	減	増	短	長	長	減
名稱	主和音	上主和音	中和音	下屬和音	屬和音	下中和音	導和音	主和音	上主和音	中和音	下屬和音	屬和音	下中和音	導和音
度数表示法	C: I	II	III	IV	V	VI	VI <sup>o</sup>	a: I	II <sup>o</sup>	III <sup>+</sup>	IV	V	VI	VI <sup>o</sup>

## 3. 主要三和音と副三和音

長短兩音階各度上の三和音の内、主和音、屬和音及び下屬和音の三種は主要三和音、其の他の三和音は之を副三和音と稱する。主要三和音は各調の三和音中最も重要なものであつて、其の調性を明示するとともに和聲の基礎をなすものである。



長調の主要三和音 短調の主要三和音

C: I IV V a: I IV V

#### 4. 人聲の區域と四聲音

人聲は之を其の音域によつて下表の如く四種に區別することが出来る。之を**四聲音**と稱し、和聲の研究は四聲音の和聲を構成することによつて始められる。



sopranoとaltoとは通常女聲であり、tenorとbassとは男聲である。

#### 5. 和音中の音の重複と省略

三和音によつて四聲音の和聲を作るには、必ず和音中の或音の重複を必要とし、又聲音進行の都合上、屢或音の省略をも必要とするものである。

##### 音の重複に関する法則

- (1) 第一に根音の重複、次に第五度の重複を以て可とする。
- (2) 第三度の重複は通常短三和音及び減三和音のもの(根音と短三度をなすもの)に限り之を可とし、止むを得ざる場合に限り、根音と長三度をなすものゝ重複を可とする。

##### 音の重複の例



- (3) 音階の第七度(導音)の重複は特に之を禁止する。

##### 音の省略に関する法則

##### 音の省略の例



- (1) 第五度の省略を以て最も可とする。
- (2) 第三度の省略は特に之を禁止する。

#### 6. 密集和聲と開離和聲

四聲音の和聲に於て、上部の三聲音がオクターヴ内に於て互に近接して其の間に一和聲音をも挟み得ないものは**密集和聲**、然らざるものは之を**開離和聲**と稱する。



和聲研究の當初に於ては、先づ密集和聲に據るのを以て順序とする。

## 7. 和音の基本位置

和音が最低聲音に其の根音を有する場合には、之を和音の**基本位置**と稱する。



## 8. 三和音の轉回

和音中の音程の一つが、低音として根音の下位に置き換へられるのは之を**和音の轉回**と稱する。

**第一轉回** 根音の第三度が低音となり、これが爲に根音が低音の第六度、根音の第五度が低音の第三度となつたものは之を**第一轉回**即ち**六**の

和音と稱し、 $\text{6}$ 又は單に $\text{6}$ を以て其の音程表示とする。

**第二轉回** 根音の第五度が低音となり、これが爲に根音が低音の第四度、根音の第三度が低音の第六度となつたものは之を**第二轉回**即ち

**四六**の和音と稱し、 $\text{4 6}$ を以て其の音程表示とする。



四六の和音の使用に關しては特別の注意を要するものであつて、四六の和音にして樂曲の途中に於て用ひられるものは尠く、通常樂曲の終止部に於て用ひられる。

尙六の和音に於ける最良の重複音は、基本和音の場合と同様に根音であり、次に其の第五度、四六の和音に於ては根音の第五度、次に根音である。

三和音の第一轉回に於ける根音の第三度(但し導音以外のもの)の重複は、之によつて特に聲音の進行を圓滑ならしめ得る場合に限り可とされるが、導音上の減三和音の場合に於ては、特に之を行ふのを以て最も可とされる。

## 9. 聲音の進行

聲音の進行は其の方向によつて**並進行**、**反進行**及び**斜進行**の三種に區別される。



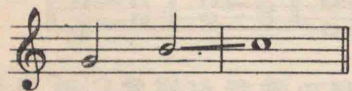
四聲音の進行に於ては、之等三種の進行が適當に混用される。

## 10. 和音の連結

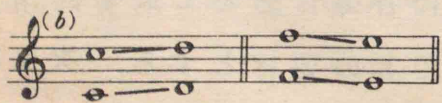
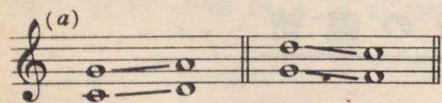
和音の連結に於ては、一に各聲音をして最も圓滑且自然に進行させるのを以て其の要旨とする。次に和

音の連結に関する諸法則中、其の重なるものを掲げる。

(1) 音の進行を圓滑且容易ならせるために、兩和音に共通の音はなるべく同一聲音に保續させる。



(6) 五度又は八度關係の二個の聲音の並進行は之を



(2) 共通音以外の音はなるべく次の和音中の最も近い音に進行させる。

(3) 兩和音に共通音の全く無い場合には、以上の諸法則に準據して低音に對し他の三聲音を反進行させる。

(4) 増音程の進行は各聲音共に之を不可とする。

(5) 導音(音階の第七度)は通常之を二度上方の主音に導く。

連續五度又は連續八度と稱し、共に聲音の獨立的進行を破壊するものとして之を嚴禁する。

(7) 或音程より五度又は八度にいたる並進行は之を隱伏五度又は隱伏八度と稱し、多くは之を許容する。



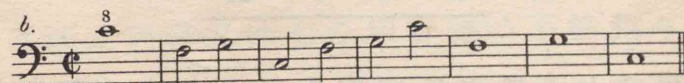
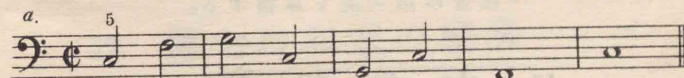
練習問題

1. 次の課題に、三和音を使用して内聲音を記入せよ。



2. 次の低音に對し、三和音を使用して上三聲音を附記せよ。

(最初の低音符上の數字は最上聲音の度数を示す。尙終止和音の最上聲音は常に主音の外其の第三度或は第五度なることを得るものである)



3. 次の課題に、三和音を使用して内聲音を記入せよ。

(低音符上の記號#は上三聲音中に於て低音の第三度の半音程上昇すべきことを示す)



\*根音の第五度を省略して第三度を重複する。

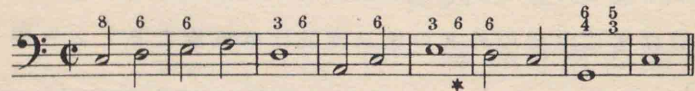
4. 次の課題に、指定の三和音と其の轉回とを使用して内聲音を記入せよ。



C: I - IV I IV V<sup>o</sup> I M IV<sup>o</sup> I V I



5. 次の低音に對し、指定の三和音と其の轉回とを使用して上三聲音を附記せよ。



\*根音の第三度を重複する。

## 11. 七の和音

三和音の上方に更に三度を加へたもの、即ち根音、其の第三度、第五度及び第七度の四音よりなる不協和々音は之を**七の和音**と稱する。七の和音も三和音と同様に、之を音階の各度上に構成することが出来るが、其

の中最も重要なのは屬音(音階の第五度)上のものであつて、之を**屬七の和音**と稱し、其の他のものは之を**副七の和音**と總稱する。

副七の和音の第七度は和音の連結に際して、通常前和音内の同一聲音に於て豫備されるべきものである。但し、**減七の和音**(短調の第七度上の七の和音)に於ては、之を豫備せざるも可とされる。



長音階各度上の七の和音

C: I<sub>7</sub> II<sub>7</sub> III<sub>7</sub> IV<sub>7</sub> V<sub>7</sub> VI<sub>7</sub> VII<sub>7</sub>



短音階各度上の七の和音

a: I<sub>7</sub> II<sub>7</sub> III<sub>7</sub> IV<sub>7</sub> V<sub>7</sub> VI<sub>7</sub> VII<sub>7</sub>

七の和音は四聲音の和聲を作るのに、之を其の儘用ひることも出来るが、又和音連結の都合上、或音の省略及び重複を必要とするものであつて、これが爲には通常第五度を省略して根音を重ねるのを以て最も可とする。

尙七の和音中、屬七の和音に次いで重要なのは上主音(音階の第二度)上のものであるが、特に短調に於て重用される。

## 12. 屬七の和音の解決

例へば減三和音又は七の和音等の不協和々音(不獨立和音)に於ては、必ず協和々音(獨立和音)への進行を必要とするものであつて、之を**解決**と稱する。

屬七の和音は通常之を主和音に解決する。即ち根音が低音にある場合には、常に之を四度上行又は五度



下行させ、第七度は通常二度下行して主和音の第三度に、第三度(導音)は二度上行して主和音の根音に進行させる。

(a) C: V<sub>7</sub> I C: V I (b) C: V<sub>7</sub> I C: V I (c) a: V<sub>7</sub> I a: V<sub>7</sub> I (d) a: V<sub>7</sub> I a: V<sub>7</sub> I

尙屬七の和音の第三度は、之が内聲に屬し、且低音と反進行をなす場合に限り、三度下行し得るものである。

(a) C: V<sub>7</sub> I (b) a: V<sub>7</sub> I

### 練習問題

次の課題に、指定の三和音と其の轉回及び屬七の和音を使用して内聲音を記入せよ。

C: I M<sup>o</sup> I IV II V<sub>7</sub> I M IV I V<sub>7</sub> I

\* 根音の第五度を省略する。

## 附 録

## IF A BODY FIND A LESSON.

Andante.

Old Scotch song.



1. If a bo-dy find a les-son Rather hard and dry;
2. If a bo-dy scan his les-son With a stea-dy eye,



If no-bo-dy comes to "show" him Need a bo-dy cry?

All its hard-ness he will con-quer, Con-quer by-and - by.



If he's lit-tle time to stu-dy, Should he stop and sigh?  
Then how nice-ly he'll re-peat it, Face not all a wry!



Ere he says, "I can-not get it," Ought he not to Try?  
Ne'er a-gain he'll say "I can-not!" But will go and Try?

## OLD BLACK JOE.

Poco adagio.

Foster.



1. Gone are the days When my heart was young and gay;
2. Why do I weep when my heart should feel no pain?
3. Where are the hearts once so hap-py and so free? The



Gone are my friends from the cot-ton-fields a-way;  
Why do I sigh that my friends come not a-gain?  
chil-dren so dear that I held up-on my knee?



Gone from the earth to a bet-ter land I know,  
Griev-ing for forms now de-part-ed long a-go, I  
Gone to the shore where my soul has longed to go,



hear their gen-tle voi-ces call-ing, "Old Black Joe!"



I'm com-ing, I'm com-ing, For my head is bend-ing low;



I hear those gen-tle voi-ces call-ing, "Old Black Joe!"

# MASSA'S IN DE COLD, COLD GROUND.

Moderato.

Foster.



1. Round de mead-ows am a - ring - ing De  
 2. When de au-tumn leaves were fall - ing, —  
 3. Mas - sa make de dark-ies love him, —



dark-ies' mourn - ful song, — While de mock-ing bird am  
 When de days were cold, Twas hard to hear old mas-sa  
 Cayse he was so kind, — Now dey sad-ly weep a -



sing - ing, Hap - py as de day am — long ; —  
 call - ing, Cayse he was so weak and — old ; —  
 bove him, Mourn-ing cayse he leave dem be - hind ; I



Where de i - vy am a - creep - ing, O'er de grass - y  
 Now de or-ange trees am bloom - ing, On de sand - y  
 can - not work be-fore to - mor - row, Cayse de tear - drops



mound, — Dare old mas - sa am a - sleep - ing,  
 shore, — Now de sum-mer days am com - ing,  
 flow, I try to drive a - way my sor - row,



Sleep-ing in de cold, cold ground.  
 Mas - sa neb-ber calls no more. Down in de  
 Pick - in' on de old ban - jo.



corn - field, Hear dat mourn - ful sound:



All de dark-ies am a - weep - ing,



Mas - sa's in de cold, cold ground.

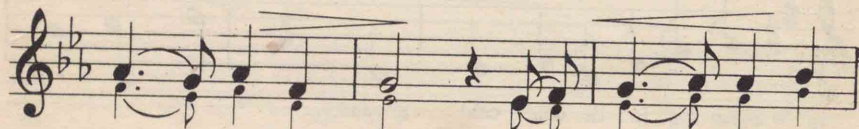
# HOME, SWEET HOME.

Moderato.

Bishop.



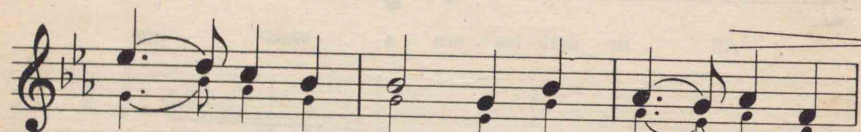
1. 'Mid pleas - ures and pal - a - ces  
2. I gaze on the moon as I  
3. An ex - ile from home, splen - dor



tho' we may roam, Be it ev - er so  
tread the drear wild, And feel that my  
daz - zles in vain; Oh, give me my



hum - ble, there's no place like home; A  
moth - er now thinks of her child; As she  
low - ly thatched cot - tage a - gain; The



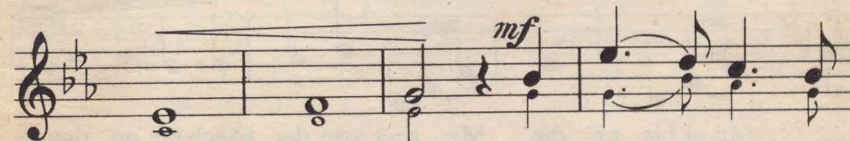
charm from the skies seems to hal - low us  
looks on that moon from our own cot - tage  
birds sing - ing gai - ly, that came at my



there, Which, seek thro' the world, is ne'er  
door, Thro' the wood bine whose fra - grance shall  
call: Give me them and that peace of mind,



met with else - where. Home, home,  
cheer me no more.  
dear er than all.



sweet, sweet home, There's no place like



home, There's no place like home.

# DEUTSCHLAND ÜBER ALLES.

ドイツユラント ユーベル アルレス

Moderato.

Haydn.



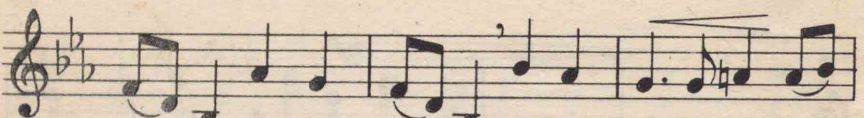
Deutschland, Deutschland ü - ber Al - les ü - ber  
ドイツユラント ドイツユラント ユーベル アルレス ユーベル



Al - les in der Welt; wenn es stets zu Schutz und  
アルレス イン デール ヴェルト ヴェン エス シュツツツー シュツツウント



Trut - ze brü - der - lich zu - sam - men - hält. Von der  
トルツェ ブリュデルリヒ ツーザンメンヘールト フォンデル



Maas bis an die Me - mel, von der Etsch bis an den  
マースビスアンディーメーメルフォンデルエツチビスアンデーン



Belt: Deutschland, Deutschland, ü - ber  
ベールト ドイツユラント ドイツユラント ユーベル



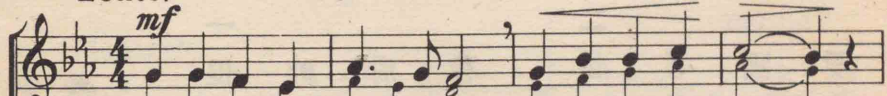
Al - les, ü - ber Al - les in der Welt!  
アルレス ユーベル アルレス イン デール ヴェルト

# 常若の花

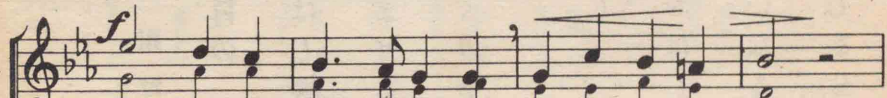
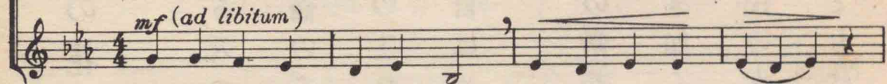
(三月六日奉祝の歌)

幸田 延

Lento.



一カシコクヒカルアマツヒノ  
二にほふさくらのとこわかにか



カミノミスエノクハシヒメ  
めでたきごとくおはしませ



キサイノミヤノアレマセール  
くにつみたみのおほいなる



ハールノヨキヒハメグリキヌ  
あいのかがみとおはしませ



萬 歳

Bellini.

Moderato.

Three staves of musical notation for the song 'Manji no Hana'. The lyrics are written below the notes.

バン ザイバンザイバン ザイ アフ ゲバタフトヤマト  
 シ マネ フク カ ゼモ フル ア メモ ヒジ  
 リノミヨヲコトホ グ オヒ タテ ヲーミー  
 メヨ ヲーミー

Three staves of musical notation for the song 'Manji no Hana'. The lyrics are written below the notes.

ナ ゴ サカ ユククニノハシラト ー ツト アフ  
 ナ ゴ ハエ アルクニノカタメ ト  
 ゲ アフゲ ミカドノミイツ イハ  
 ヘ イハヘ ミクニノサカ  
 エ ア ア ア ア ア バン バン ザイ

常若の花

與謝野晶子

一 畏く光る天つ日の

神の御裔のくはし姫

後の宮の生れませる

春の吉日はめぐりきぬ

二 匂ふ櫻の常若に

めでたき如くおはしませ

國つ御民の大いなる

愛の鑑とおはしませ

萬 歳

森 迫 武

萬歳 萬歳 萬歳

仰げばたふと大和島根

吹く風も降る雨も

聖天子の御代を壽ぐ

生立て女子

榮行く國の柱と

務めよ女子

光榮ある國の固と

仰げ仰げ帝の御稜威

祝へ祝へ御國の榮

あ あ あ あ あ 萬萬歳

# 卒業式の歌

Andante.

若狭萬次郎

*mp* (卒業生)

一 マ ナ ビ ノ ミ チ ャ バ タ ダ シ ク フ ミ キ テ  
 ニ を し へ の ま に ま に わ ざ な し と げ つ る

*mf*

ハ ゲ ミ シ カ ヒ ア ル ケ フ ノ ハ レ ノ ニ ハ  
 し る し の ふ み え て こ こ ち と き め き ぬ

*mp* (在校生)

ホ マ レ ニ カ ガ ヤ ク ユ ク テ ヲ バ コ ト ホ ガ ン  
 の ど み に み ち た る か ど で を ば み お く ら ん

*mp* (*ad libitum*)

ツ キ セ ヌ ナ ゴ リ ニ ム ネ ハ セ マ レ ド  
 さ り と て た も と を わ か ち か ぬ れ ど

*mp* (卒業生)

サ ラ バ サ キ ク マ セ ヤ シ ノ キ ミ ト モ ガ キ  
 あ は れ い や さ か え よ わ れ ら が ま な び や

*mf* (一同)

ト ハ ニ ワ ス レ ジ ト シ ゴ ロ ノ イ ツ ク シ ミ  
 は な れ が た し や む つ び つ る を と め ど ち

*mf*

(*ad libitum*)

タ マ ア ヒ シ マ ジ ラ ヒ  
 ふ み な れ し こ の に は

一 學の道をば正しく踏み來て  
 勵みし甲斐ある今日の晴の場  
 譽に輝く行手をば壽が  
 盡きせぬ名残に胸は迫れど  
 さらば幸くませや師の君友垣  
 こはに忘れじ年頃の慈

二 教のまにまに業なし遂げつる  
 證の書得て心時めきぬ  
 望に満ちたる門出をば見送らん  
 さりとて袂を分ち兼ねれど  
 あはれ彌榮えよ我等が學校  
 離れ難しや昵びつるをこめごち  
 踏み馴れし此の庭

魂合ひし交らひ

## 卒業式の歌

堀澤鹿峽

# 送別の歌

Moderato.

スコットランド歌謡曲

*mf*

一 ヨ ノ ヒ ト コ ゾ リ テ キ ミ ヲ マ テ リ  
 二 さ す が に な ご り の を し く あ れ ど

ト シ ゴ ロ ヲ サ メ シ ト ク ト ザ エ ト  
 わ か れ に の ゴ め て な に か い は ン

*mf*

ア ラ ハ ニ シ メ サ ン ト キ ハ イ マ ゾ  
 と く も て ざ え も て さ き く つ と め

ヲ ヲ シ ク ユ キ マ セ イ ザ ヤ ト モ ヨ  
 あ か る き わ が よ と な せ や と も よ

## 送別の歌

森 迫 武

一世の人こそりて 君を待てり  
 年來修めし徳と才と 顯に示さん時は今ぞ  
 雄々しく行きませ いざや友よ

二 流石に名残の 惜しくあれど  
 別に臨みて何か言はん 徳もて才もて幸く務め  
 明るき我が世と なせや友よ

發行所

東京市芝區松本町四十四番地  
 會社 共益商社書店

電話 東京一五八〇番番  
 三田(45)四〇〇五番番  
 七六番番

不 復 轉 騰  
 許 製 載 寫

昭和八年九月二十三日印  
 昭和八年九月二十六日發  
 昭和十一年九月廿五日修  
 昭和十一年九月廿八日修

訂 行  
 發 行  
 刷 行

編著者 若 狹 萬 次 郎

東京市芝區松本町四十四番地

發行兼 會社 共益商社書店

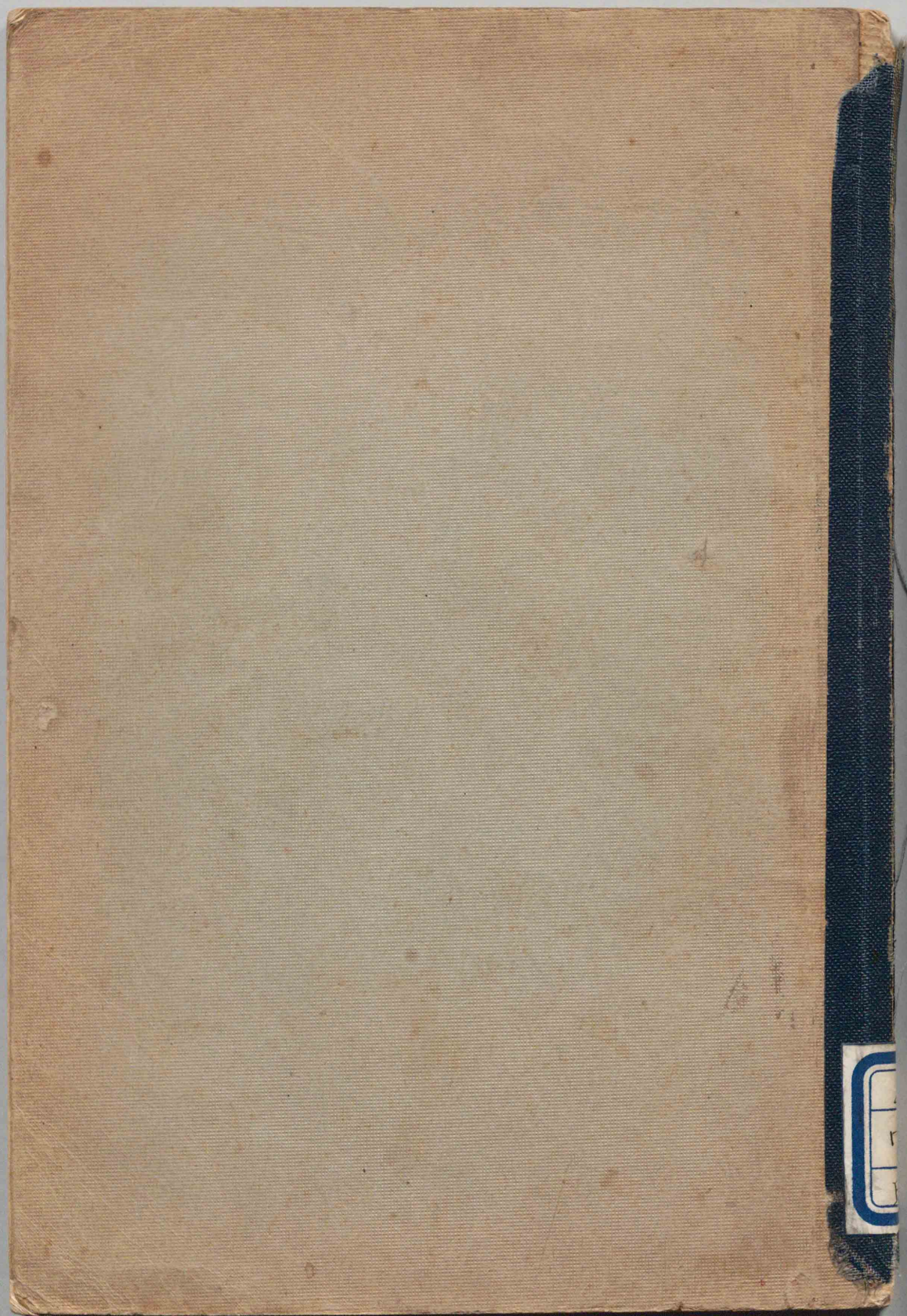
代表者 白 井 保 男

印刷所 共益商社書店印刷部

第一編	定價金五拾五錢
第二編	定價金五拾五錢
第三編	定價金六拾錢
第四編	定價金六拾錢
第五編	定價金六拾五錢



北陸女學校高等女學部  
第三學年一組  
姓名 辻幸子



U  
r